

令和3年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等
に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」
成果報告書

令和4年4月
一般財団法人全日本ろうあ連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般財団法人全日本ろうあ連盟が実施した令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

【調査概要と目的】

ろう者や難聴者への指導現場においては、きこえない選手ときこえる指導者との意思疎通のためには、手話言語通訳者が欠かせないものとなっている。スポーツの指導現場における手話言語通訳者に求められる役割・知識としては、ろうや難聴に関する理解はもちろんのこと、スポーツへの理解、身体の基本構造やメディカル（フィジカル面・メンタル面）・アンチドーピングを含むハイレベルスポーツに共通する知識のほか、スポーツならではの特性として競技毎にルールや必要とされる技術、使用用具などが大きく異なり、手話言語通訳としては非常に専門性の高いものとなる。また、競技における専門用語の中には手話表現が確定されていないもの、地域によって手話表現が異なるものもある。

そのため指導現場で手話言語通訳を行うには、手話言語通訳者が多くの知識を身につけることは勿論のこと、競技における専門用語の手話表現の確定や共通化（現状、指導現場で使用され普及しているサインも含む）も必要である。

昨年度の本事業（令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」）においては、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成に関する研修・講習に必要なマニュアルの作成に向けた調査研究を行い、試行的に「デフスポーツ共通（デフスポーツの紹介）」、「競技別（サッカー・自転車）2冊」、「式典における国歌手話言語試行版」の計4冊のガイドブックを作成した。その結果、「スポーツに精通した手話言語通訳者が不足しており、引き続き、手話言語通訳者に知ってもらいたいスポーツの知識の整理を進めるとともに、サッカー・自転車以外の競技を増やしていく必要がある」という課題を検討委員会でも確認している。

今年度の事業では、上記の課題を踏まえて、デフスポーツにおいて、「学校教育」「レクリエーション」「競技」などの分野毎に通訳が必要なケースや通訳をするにあたっての留意事項を取り上げた。また、競技編に関しては、学校教育分野における調査研究を行うために、現在、ろう者や難聴者を対象とする特別支援学校（高等部、専攻科）において、全国聾学校体育連盟が主催する全国大会が開催されている陸上と卓球の手話言語を取り上げた。昨年度の「スポーツに精通した手話言語通訳者の育成等に関する有識者による検討委員会」（以下、「検討委員会」）から、「学校教育」「レクリエーション」「競技」などの分野毎に委員を入れ替えたうえで、「デフスポーツ共通ガイドブック」を、また、検討委員会の下に「専門部会（陸上・卓球）」を設け、各競技における有識者を選出し、「競技別（陸上・卓球）ガイドブック」の作成をすすめ、現場の通訳経験者とスポーツ通訳に興味のある通訳者による「研修会」開催し、作成したマニュアル等の有効性や実効性を確認した。

さらに、検討委員会にて、専門部会や研修会を通して、スポーツ指導現場における手話言語通訳における課題や改善点を整理し、次年度以降の実施方法や体制をとりまとめた。次年度以降においては、対象範囲をさらに広げるとともに、今年度の分野別に通訳が必要なケースだけでなく、現場での意思疎通の環境を改善するための提案や通訳技術の好事例をとりいれてみた。

【調査内容・詳細】

全日本ろうあ連盟は、国内デフスポーツ競技団体（23 団体）と連盟内の部門であるスポーツ委員会を通して密接な関係を持っており、デフスポーツの現状や課題を把握している。また、スポーツ委員会内にメディカルの専門委員会である「医科学委員会」を設置しており、医学的な観点からもアプローチをすることができる。下記の団体とも日常的に協力・連携して活動しており、これらの団体、または関係団体の協力を得ながら今回の調査研究事業を行った。

- ・ 社会福祉法人全国手話研修センター

厚生労働省の委託を受けて標準手話の確定と普及に取り組んでいる日本手話研究所が設置されている。また、都道府県が認定する「手話通訳者」の資格試験である「手話通訳者全国統一試験」を実施している

- 一般社団法人全国手話通訳問題研究会
聴覚障害者福祉と手話通訳者の社会的地位の向上を目指して、手話や手話通訳、聴覚障害者問題についての研究・運動を行う組織
- 一般社団法人日本手話通訳士協会
厚生労働省認定資格である「手話通訳士」の資質および専門的技術の向上と、手話通訳制度に寄与する手話通訳士による組織
- 国立大学法人筑波技術大学
日本で唯一のろう者や難聴者のための高等教育機関。全国からろうや難聴学生が集まり、スポーツに打ち込む学生も多い
- 全国聾学校体育連盟
全国の聾学校のうち、東北、関東、東海、近畿、中国／四国の5ブロックで約80校が加盟。北海道と九州地区は未加盟。1964年より毎年、全国聾学校陸上大会、全国聾学校卓球大会を主催しています。

実 施 日 程 表 (実 績)

実施時期	実施事項	
	1. 検討委員会	2. 専門部会
11月	18日 委託契約	
12月	17日 第1回検討委員会	
1月	27日 第2回検討委員会	6、13、21日 部会
2月		26日 研修会開催
3月	9日 第3回検討委員会	ヒアリング実施
	事業委託成果報告書作成（製本）、完了報告書（会計等）提出	

事業実績の説明

(1) 有識者による検討委員会

1. 「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会」委員の選定
全日本ろうあ連盟及びその関係団体（手話言語関係団体、デフスポーツ競技団体、現場手話言語通訳者等）から適任者を選定し、委員を委嘱した。
今年度は、学校体育をテーマとしたため、全国聾学校体育連盟から2名を選定した。

<検討委員会委員> 11名

全国聾学校体育連盟	浅原 正文
全国聾学校体育連盟	荒川 郁朗
国立大学法人筑波技術大学	大杉 豊
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会	大平 静也
一般社団法人日本デフ陸上競技協会	門脇 翠
一般社団法人全国手話通訳問題研究会	桐原 サキ
一般社団法人日本手話通訳士協会	草野 真範
社会福祉法人全国手話研修センター	小出 新一
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 医科学委員	中島 幸則
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 委員長	小椋 武夫
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長	嶋本 恭規

<任務内容>

- ・委員会会議出席（期間内3回を予定、オンライン参加対応可）
- ・メーリングリスト等を活用した意見交換
- ・パンフレット作成への意見提案・骨子案作成
- ・スポーツに精通した手話言語通訳者養成オンライン研修会企画、検討
- ・事業の結果・分析、提言作成

2. 「検討委員会」会議の開催

第1回

開催日時：2021年12月17日（木）10時00分～12時00分

方 法：オンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：検討委員7名（小出、桐原、草野、大杉、大平、門脇、浅原）
他事務局、オブザーバー等9名

- 議題：1. 事業概要・主旨・方向性の確認
2. マニュアルの構成（冊子・動画）の構成及び内容
3. 専門（作業）部会メンバーの人選

議論概要：デフスポーツに精通した手話言語通訳者を養成していくために、令和2年度の「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」では、今後、デフスポーツにおける、「学校

教育」「レクリエーション」「競技」などの分野毎に通訳が必要なケースや、通訳をするにあたっての留意事項をまとめたマニュアルが必要という提言を元に、今年度は学校教育における手話言語通訳をテーマとしたマニュアルを作成することを確認した。あわせて専門競技のマニュアルとして、現在、ろうや難聴をもつ学生を対象とする特別支援学校（高等部、専攻科）において、全国聾学校体育連盟が主催する全国大会が開催されている陸上と卓球の手話言語通訳を取り上げるようになった。会議においては、実際のマニュアルを作成する検討（作業）部会の人選及び、マニュアルを使用した研修会をどのように進めていくか確認を行った。



< 第 1 回検討委員会の様子 >

第 2 回

開催日時：2022 年 1 月 27 日（金）14 時～16 時

方法：オンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：検討委員 11 名（小椋、嶋本、中島、大杉、桐原、小出、浅原、荒川、門脇、大平、草野）

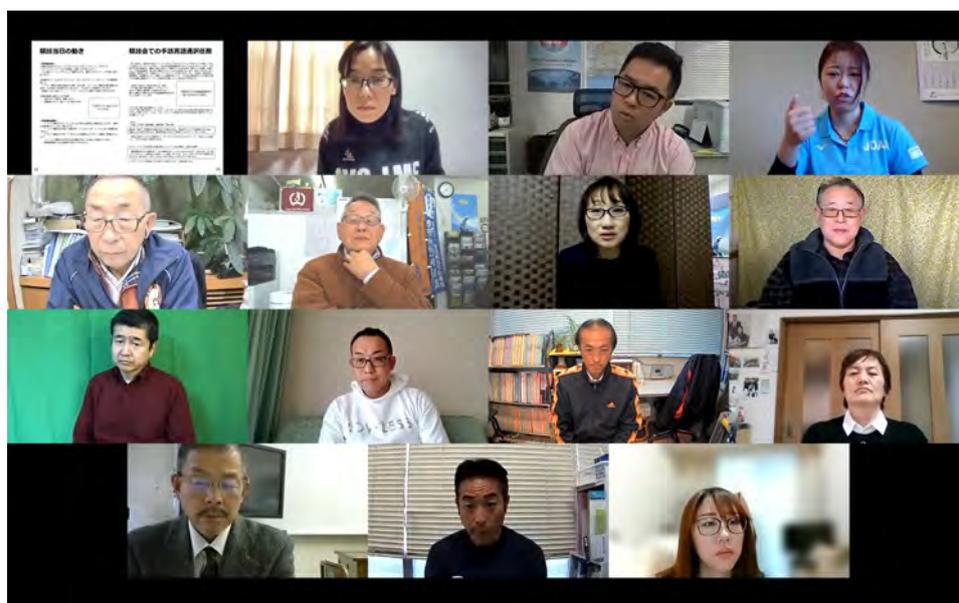
他、事務局、専門部、手話言語通訳者、オブザーバー等 9 名

議題：1. 共通マニュアルの構成・内容について（競技別含む）

2. マニュアルを用いた研修会の実施について

議論概要：専門部会より、専門部会が作成したマニュアルのたたき台について説明があった。たたき台では体育の授業、部活の情報保障の現状など、ろう学校の先生や部活経験者へのインタビューなど生の声を集め掲載をしたこと、また情報保障だけでなく、いまはコロナ過でマスク着用が多いのでコミュニケーションに困っている人もいるので、そのあたりも載せたいという話があった。検討委員会としては、「学校体育」に関しては、聾学校での大会歴史や競技記録などよりも、ろう学校以外にも地域の学校に通うろうの生徒にもインタビューして、どういう場面で通訳が必要だったのか等の経験談を載せる方向で進めていく

ことを確認した。また「ろう」や「手話言語」の表記方法の統一、「情報保障」の定義、写真の著作権の注意など、前提の確認を行った。このマニュアルを元にスポーツに精通した手話言語通訳者養成研修会を、ろう学校の現場をお借りして、ロールプレイング形式で実施する予定だったが、コロナ禍のためオンラインに変更してデフスポーツの現場で活躍されている手話言語通訳者を招いた座談会形式で開催することを確認した。



<第2回検討委員会の様子>

第3回

開催日時：2022年3月9日（水）14:00～16:00

方 法：対面（測量年金会館）及びオンライン（ZOOM ミーティング）

出席者：検討委員8名（小椋、嶋本、小出、桐原、草野、大杉、大平、門脇）
他、事務局、専門部、手話言語通訳者、オブザーバー等8名

- 議 題：1. 研修会の報告と振り返り
2. マニュアル最終確認
3. 今年度事業の振り返りと来年度に向けた提言

議論概要：2月26日の研修会のアンケートを見ると、とても良い、良かったが9割以上となった。アンケートでは今回作成したマニュアルを現場に初めて来る手話言語通訳者に配布することで、手話言語通訳者も不安なく参加できるようになる、また視覚的情報保障として一番理解しやすいのがスタートランプなので、一般へ周知できる方法として今回作成したマニュアルを手話言語通訳者のみならず、スポーツに関わるボランティアや、学校の障害者教育の現場でも配布できるよう今回のマニュアルをHPに載せることで、デフスポーツや情報保障に対する理解が広がるのではないかという好意的な意見をいただいた。一方でルールの手話表現が知りたいという意見もあったが、ルールの手話につ

いては、当連盟が「スポーツの手話のハンドブック」を出しているの
 で、そちらの周知もマニュアルに載せていくことを確認した。他にも
 ルールを手話言語で知りたいという意見もあったので、次回以降は、
 オンライン研修会をアーカイブに残すなりして活かせればと思う。ま
 た、デフのそれぞれの競技団体において、手話通訳者が足りているの
 かないのかの数的なデータを集める必要があり、手話通訳士協会か
 らも「競技団体でその競技経験のある通訳者を探している」というこ
 とを、積極的に周知して探していただくことで、今後協力してデフア
 スリートの発掘と共に通訳者を探して必要性や、手話言語通訳者が全
 体的に高齢化しているので、スポーツを通して若い人の手話言語通訳
 者を増やしていく体制作りが必要という指摘があった。今年のベース
 である「学校体育」の次は、アスリートを取り巻く話に焦点を絞るの
 が良いという意見もいただいた。選手を取り巻くのは監督、コーチの
 みならず、ドクター、トレーナー、栄養士、メンタルサポート、科学
 者、アナリスト等、多くの人が関わっており、来年度以降のテーマと
 したい。

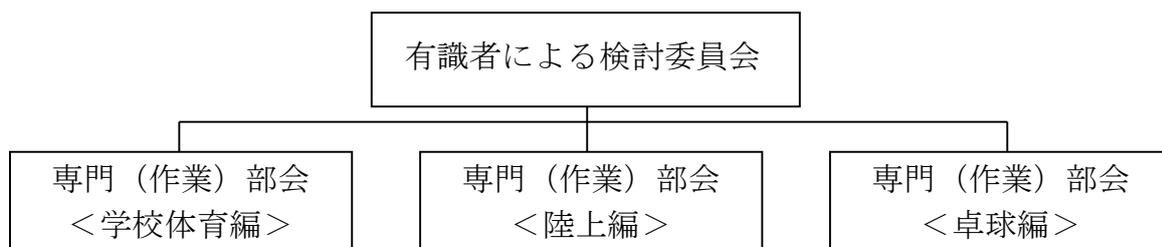


< 第 3 回検討委員会の様子 >

(2) 専門（作業）部会

1. 「デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成マニュアル作成における専門（作業）部会」部員の選定

検討委員会の意見を元に、聾学校の体育指導、全国大会や部活動指導で使えるマニュアル（学校体育編、陸上編、卓球編の3冊）を作成する作業部会として、手話言語関係団体、デフスポーツ競技団体、現場手話言語通訳者等から適任者を選定し、部員を委嘱した。



＜学校体育（マニュアル）編＞ 5名

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 医科学委員	中島 幸則
国立大学法人筑波技術大学 技術補佐委員	平井 望
一般社団法人日本手話通訳士協会	草野 真範
一般社団法人日本デフ陸上競技協会 強化委員 (東京都立中央ろう学校陸上部問)	竹見 昌久
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会 強化委員 (元静岡県立沼津聴覚特別支援学校卓球部顧問)	白鳥 奈美

＜陸上編＞ 4名

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 医科学委員	中島 幸則
国立大学法人筑波技術大学 技術補佐委員	平井 望
一般社団法人日本デフ陸上競技協会 副会長	門脇 翠
一般社団法人日本デフ陸上競技協会 強化委員 (東京都立中央ろう学校陸上部問)	竹見 昌久

＜卓球編＞ 4名

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 医科学委員	中島 幸則
国立大学法人筑波技術大学 技術補佐委員	平井 望
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会 事務局長	大平 静也
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会 強化委員 (元静岡県立沼津聴覚特別支援学校卓球部顧問)	白鳥 奈美

<任務内容>

- ・マニュアル（学校体育、陸上、卓球）作成
- ・マニュアル中のヒアリング実施
- ・検討委員会、専門部会議出席
- ・メーリングリスト等を活用した意見交換
- ・スポーツに精通した手話言語通訳者養成オンライン研修会開催運営

2. 「専門部会」会議の開催

- ・第1回検討委員会後、第2回検討委員会までに、マニュアルのたたき台を作成するために3回会合を行った。第2回検討委員会後は、主にメーリングリストを用いて、マニュアルの加筆・修正を行った。

会議日時	出席者
2022年1月6日（木） 10:00-11:40	中島・平井・竹見・白鳥・草野・大平・門脇・小椋・嶋本
2022年1月13日（木） 19:00-20:30	平井・竹見・白鳥・草野・大平・門脇・小椋・嶋本
2022年1月21日（金） 19:00-20:30	中島・平井・竹見・白鳥・草野・大平・門脇・小椋・嶋本

3. スポーツに精通した手話言語通訳者養成オンライン研修会の開催

- ・スポーツに興味のある手話言語通訳者を集めて、作成したマニュアルについて意見交換を行うべく、当初、ろう学校現場をお借りして対面で実施予定だったが、コロナ禍のためオンラインに切り替えた。当日は150名以上の申込があり、関心の高さが伺えた。参加者より集められた意見を元にマニュアルの改善を行った。

【目的】 学校体育や部活動に関する基礎知識、競技別の専門用語の手話表現や競技中における手話言語通訳者が注意すべきこと等について意見交換を行い、スポーツに精通した手話言語通訳者を養成することを目的とする。

【日時】 2022年2月26日（土）14:00～15:30

【対象】 スポーツに関心を持っている手話言語通訳の方
学校体育や部活動に関わっている方
手話言語通訳を受けているデフアスリート

【研修内容】 （司会：全日本ろうあ連盟スポーツ委員会委員長 小椋 武夫）

①座談会 14:00～14:40

テーマ「学校体育及びデフスポーツ団体の現場におけるスポーツ指導と課題」

講師： 筑波大学附属聴覚特別支援学校 荒川 郁朗 先生
東京都立中央ろう学校 竹見 昌久 先生
神奈川県立平塚ろう学校 白鳥 奈美 先生
日本ろう自転車競技協会 手話言語通訳者 田村 梢 氏
日本デフバレーボール協会 手話言語通訳者 岡田 直樹 氏

質疑応答 14:40～15:00

②パンフレット案に対する意見交換 15:00～15:30

1. 「デフアスリートをささえる vol.2」
2. 「競技別手話言語通訳ガイド 陸上競技編」
3. 「競技別手話言語通訳ガイド 卓球編」

【成果】終了後に参加者にアンケートを配布したところ、4点満点中平均 3.52 点と好評だった。アンケートの結果は、後述の「成果物」にて掲載。

<参加者の評価点について>

評価	評価点	割合
とても良かった	4点	36.7%
良かった	3点	63.3%
悪かった	2点	0%
とても悪かった	1点	0%



<研修会 講師の皆様>



<研修会の様子>

4. ヒアリングの実施

- ・ マニュアル中に学校の指導現場の様子及び中高時代のスポーツ経験についてヒアリングを行った。学校の指導現場は主に検討委員、専門部員の中から学校現場の先生を選出した。また中高時代のスポーツ体験については、検討委員の中から競技団体を通して、「陸上」と「卓球」から、「ろう学校を卒業した選手」、「ろう学校と地域の学校を経験した選手」、「地域の学校を卒業した選手」の3名を選出し、ヒアリングに協力いただいた。

<学校の指導現場> 3名

全国聾学校体育連盟 事務局長 国立大学法人筑波大学附属聴覚特別支援学校 バレーボール部顧問	荒川 郁朗
一般社団法人日本デフ陸上競技協会 強化委員 (東京都立中央ろう学校陸上部顧問)	竹見 昌久
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会 強化委員 (元静岡県立沼津聴覚特別支援学校卓球部顧問)	白鳥 奈美

<中高時代のスポーツ体験談> 3名

ろう学校を卒業したアスリート サムスンデフリンピック金メダリスト (陸上競技) (一般社団法人日本デフ陸上競技協会)	佐々木 琢磨
ろう学校と地域の学校の両方を経験したアスリート 2013 ソフィアデフリンピック金メダリスト (卓球) (一般社団法人日本ろうあ者卓球協会)	南方 萌 (旧姓：上田)
地域の学校を卒業したアスリート サムスンデフリンピック日本代表 (陸上競技) (一般社団法人日本デフ陸上競技協会)	田井 小百合

【まとめ】

委託期間が短かったことと、新型コロナウイルス感染の拡大が収まらない状況のなかで委員会や研修会などはオンラインでの開催が主となった。しかし、短い期間ではあるが、各委員会委員や専門部会部員、競技団体の協力をいただき、「スポーツに精通した手話通訳者の育成」の足がかりとなる成果物を作成することができた。

今回の事業を進める中で「スポーツ」に特化した手話言語通訳者の必要性が再認識でき、また一人でも多くのデフスポーツの現場にも対応できる手話言語通訳者を継続して育成することでデフアスリート・デフスポーツ競技団体からの情報保障のニーズに応えられるよう、すべての競技のパンフ作成を継続していきたい。

【成果物】

以降は下記の成果物を掲載していく。

印刷物については連盟加盟団体、国及び行政、競技団体（約 20 ヶ所）等、関係団体に配布したほか、連盟 Web サイト等にPDFで公開を行い、周知を行っている。

（共通編）「デフアスリートをささえる vol. 2」（分野に応じた通訳技術編）

（競技編）「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック 陸上編」

「デフアスリートをささえる競技別手話言語通訳ガイドブック 卓球編」

（研修会アンケート結果）

 <p>デフアスリートを ささえる vol. 2</p>  <p>学校体育・部活動編</p>	 <p>デフアスリートを ささえる</p> <p>競技別手話言語通訳ガイド [陸上競技編] <i>Athletics</i></p> 	 <p>デフアスリートを ささえる</p> <p>競技別手話言語通訳ガイド [卓球編] <i>Table tennis</i></p> 
学校体育編（16 ページ）	陸上編（16 ページ）	卓球編（16 ページ）

以上



デフアスリートを ささえる *vol. 2*



学校体育・部活動編

ごあいさつ

全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長
小椋 武夫



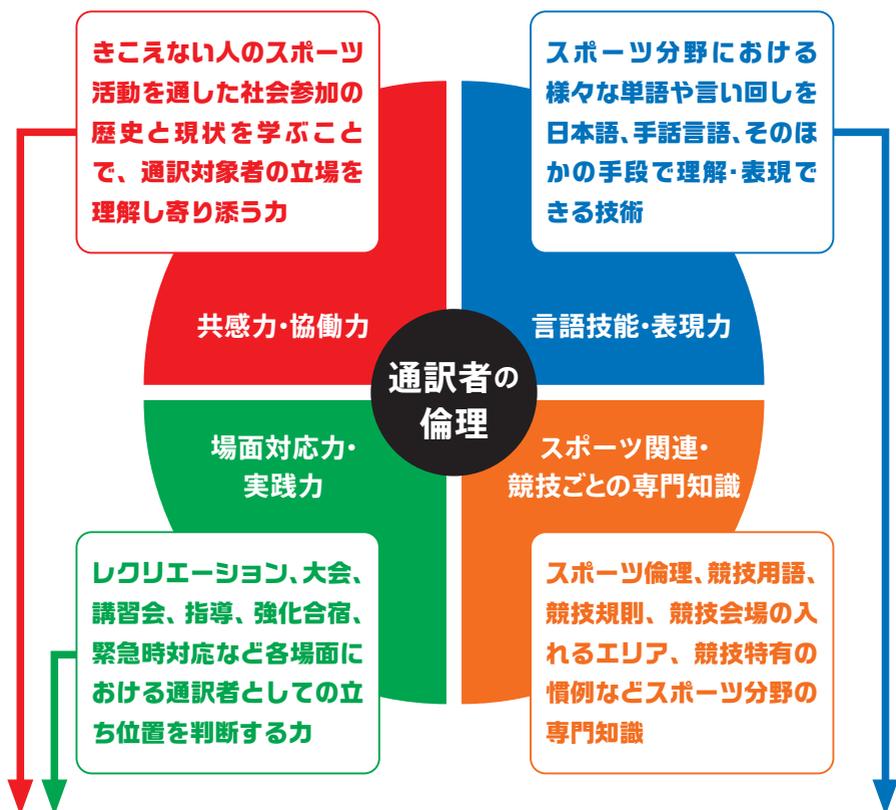
スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

きこえない人がアスリートのプレーをみるためには、スポーツ施設の情報アクセシビリティ向上、放送の字幕・手話言語付与などの整備が進められています。一方、きこえないアスリート(デフアスリート)がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

本委員会が受託しました、スポーツ庁の令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト事業」は、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を主な目的としています。そこで、スポーツ分野で通訳者が準備すべき内容の基礎として、きこえない子どもが最初にスポーツに参加するきっかけとなる学校体育や部活動、そして大会参加について紹介するパンフレットと、専門種目として、陸上競技、卓球競技を解説するパンフレットを製作しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引が役立つことを願っています。

スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」、「言語技能・表現力」、「場面对応力・実践力」、「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このハンドブック (vol. 2) は、スポーツ活動の入り口となる学校体育や部活動において、きこえない児童・生徒がどのような指導を受けているのか、どのような形で大会等に参加しているのかを、教員、卒業生それぞれのご経験もあわせて紹介します。スポーツ分野の通訳に対応できる共感力・協働力・場面对応力・実践力・言語技能・表現力を養うに必要な知識・情報の入門編としてご活用ください。

ろう学校における

部活動と大会参加

▶ ろう学校の数・在籍数

全国の聴覚障害教育を行う分校を含めた学校数は119校となっています。そこに在籍する幼児や児童、生徒の総数は、7,651名であり、そのうち、中学部・高等部の生徒数は3,688名となっています。(文部科学省 令和3年度 学校基本調査より)

▶ ろう学校の部活動の状況

生徒数が少ないため、中学部と高等部が一緒になって練習を行なっている学校が多くあります。生徒数の減少によって、体育の授業や部活動で団体競技ができなくなった学校が増えています。野球部やバレーボール部の存続が難しくなり、卓球部や陸上部、バドミントン部など個人競技の活動を中心に行っている学校が増えています。また、ろう学校の大会にはない種目でも、中体連や高体連、高文連等の大会に参加している学校や最近新しくダンス部や空手道部を創設する学校もあります。

ろう学校の大会の情報保障の様子



(全国聾学校PTA連合会HPより転載)

- ① 全国聾学校卓球大会の開会式(情報保障用スクリーンを使用)
- ② 全国聾学校陸上競技大会の試合(スタートランプを使用)

▶ ろう学校の大会一覧

	全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
陸上競技	○	○ ^{※1}	○ ^{※2}	○	—	○	○	○	—	○
卓球	○	—	○	○	○	○	○	○	○	—
野球	—	—	—	○	—	—	△ ^{※3}	—	—	—
バレーボール	—	—	—	○	—	○	△ ^{※3}	—	—	—

※1=北海道は高等聾学校1校のみのため、高校生は高体連に参加。中学部までの6校で陸上競技大会を開催

※2=隔年開催 ※3=参加チームの減少により休止

▶ ろう学校の大会のはじまり

全国大会が行われている競技は陸上競技と卓球のみで、60年近く継続されています。ろう学校の大会で最も古いのは、1952年(昭和27年)に開催された第1回関東聾学校野球大会と第1回関東聾学校排球大会になります。なお、第1回ろうあ者体育競技大会は1926年(大正15年)に開催されています。この大会は、文部省・ろう学校・各ろうあ団体の協力を得て戦時統制まで継続されていました。

全国や地区の大会だけでなく、都道府県単位の大会、学部毎の大会などさまざまな運営形式で大会が行われています。2020年より新型コロナウイルス感染症の影響によって、全国大会をはじめ地区の各大会の中止が相次いでいます。

学校体育や部活動に関わる教員にきいた

学校の指導現場

ろう学校の教員に学校体育や部活動での指導についてお話を伺いました。

質問

スポーツ指導において生徒とのコミュニケーションで困難に感じる点はありますか？きこえる指導者の視点できこえないからこそその気づきや工夫点があれば教えてください。



荒川 郁朗 先生

筑波大学附属
聴覚特別支援学校
バレーボール部顧問

中学部・高等部の授業を担当していますが、最近は人工内耳装用の生徒が増えてきていることもあり、手話言語や指文字だけでなく口形や音声も大切にしています。スポーツを指導する中で、やりにくさを感じる場面は、バスケットボールやサッカーなどのゴール型の種目を行うときです。これらの種目は基本的にホイッスルの音でプレーを中断します。例えばバスケットボールでは反則や違反が起きた時にホイッスルが鳴りますが、「押す」「つかむ」等の反則の際にプレーが中断されず、ケンカになってしまう場面が見られます。バレーボールや野球などのプレーの切れ目が分かりやすい種目と比べるとやりにくさを感じます。

ダンスの指導の場面では、動きを覚えるのがとても速いと感じます。きこえる私は曲のリズムやメロディに合わせて動きを覚えませんが、多くの生徒たちはきこえない環境の中でリズムを取る難しさを乗り越えて短い時間で動きを覚えてしまいます。ろうの生徒は、きこえない分、視る力が優れていると感じています。



竹見 昌久 先生

東京都立中央ろう学校
陸上競技部顧問

本校では、普通中学校から入学してくる、手話言語を知らない生徒も多く、個別に手話言語講習会を行うなどの支援が必要なケースも増えてきています。今年、生徒2名が陸上ハンマー投げとアルペンスキーでインターハイにすることができましたが、手話言語通訳者が競技場所に入ることが全国大会では前例が少なく、全国高体連へ手話言語通訳者の依頼をしたり、必要性を伝えるために資料を作ったりと、ろうの選手が参加するために越えなければならない作業の多さに、まだ理解が進んでいないことを感じました。

また、スポーツの場面では、音を頼りに技能を高めていくことが多く、陸上競技ではハンマー投げの風を切る音や走る時の足音などがそれにあたります。そのため、ろう選手に、言葉だけで技術指導することは厳しく、タブレットなどを活用し動画をフィードバックする事で技術習得を円滑に行うようにしています。

部活では、卓球の練習中に一斉指導することが難しいです。全員の練習をいったん止めてこちらに注目させてから説明をしても、具体的に何を要求されているかわからない生徒がいるので、生徒ごと個別に指導しました。指導者にとっては同じことを何度も言うことになりませんが、結果的にはその方が良いと感じています。コミュニケーションは手話言語が中心ですが、必ずホワイトボードに書くようにしています。練習メニューやパターン練習での返球のコースを図示したりしています。また、ビデオなどの動画を活用して視覚情報から動きをイメージできるようにしています。

卓球は音の情報も重要です。例えば、ボールにひびが入ると打球音が変わるので、きこえる選手はすぐ気づくことができますが、ろう選手はそのままラリーを続けてしまい、ひびが大きくなってボールが弾まなくなってから割れていることに気づくということが多いです。しかし、練習を重ねてラケットに当たる繊細な打球感が分かるようになった生徒は、打球感からボールのひびにすぐに気付くことができました。音の情報を補う打球感を身に付けられるということは、私にとって大きな発見となりました。



白鳥 奈美 先生

神奈川県立平塚ろう学校
卓球部顧問（非常勤）
（元静岡県立沼津聴覚特
別支援学校 卓球部顧問）

デフアスリート
にきいた

中高時代のスポーツ経験



ろう学校を卒業したアスリート

佐々木 琢磨さん

陸上競技 / 競技歴16年

Q. 競技を始めたきっかけは？

八戸聾学校の部活は陸上部しかなかったので、小学生まで野球をやっていた自分は仕方なく陸上部に入りました。中3の時、盛岡聾学校の友達に「全国聾学校体育大会のリレー種目で一緒にチームで金メダルを取ろう！」と誘われて面白そうだと思い、高校から盛岡聾学校に入學して熱心に練習するようになりました。

Q. 中高時代、部活動や大会参加においてコミュニケーションはどうしていましたか？

ろう学校だったので手話言語でコミュニケーションをとっていました。一般大会に出る時も基本的に先生が通訳してくれていたのが特に困ることはなかったですね。でも、先生を通してだけでなく、自分から積極的にきこえる選手に声をかけていたので、選手同士の交流はできていた方だと思います。

Q. 一般大会に参加して良かった点・困った点は？

僕が中高の時はまだスタートランプがなかったので、きこえる選手との勝負で悔しい思いをしましたが、それが自分が強くなるための試練になったというのが良かったと思っています。一方、先生の通訳付きでの会話になると相手がほとんど先生を見るので、相手と自分が会話しているという実感をあまり感じられなかったことがマイナスな点ですね。

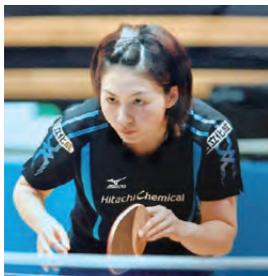
Q. 中高時代はデフリンピックの存在を知っていましたか？(初めて知ったのはいつ?)

高校の時に初めて知りました。実は、ろう学校の先生はデフリンピックの存在を知っていたのに教えてくれなかったのです。先生は、デフリンピックは非常にレベルの高い選手が出るものでとても遠い存在だと思っていたようですが、選手のレベルに関係なく、デフリンピックがあることを生徒に教えてほしかったです。

Q. デフスポーツと関わって感じていること

デフスポーツは、自分がろう者であることに誇りを感じられる大切な機会だと思っています。2年ほど前から一般大会でもスタートランプの使用を認められるようになったので、きこえる選手と対等に勝負ができるし、スタートランプを使うことで、「デフの選手がここにいるんだぞ」というアピールになるので、デフスポーツは自分を高めてくれる場にもなっています。

デフアスリートに中高時代のスポーツ経験についてお話を伺いました。



ろう学校と地域の学校の 両方を経験したアスリート

南方 萌さん(旧姓:上田)

卓球競技 / 競技歴23年

Q. 競技を始めたきっかけは？

下の兄が卓球をやっていて、兄の試合の応援に行った時に、たまたま隣のコートで五輪メダリストの福原愛さん(当時5歳)が試合に出ているのを見て、自分もやりたいと思いつから始めてみました。卓球のラリーできこえる人とコミュニケーションをとれているような感じがして楽しいと思いました。

Q. 中高時代、部活動や大会参加においてコミュニケーションはどうしていましたか？

小6までろう学校にいて手話言語で話していましたが、中学からは地域の学校に入ったため、すべて口話で話していました。部活や遠征では、ミーティングで先生の話が分からない時はチームメイトが教えてくれていました。それでも分からないときは自分から先生のところに行って聞くしかなかったので大変でした。

Q. 一般大会に参加して良かった点・困った点は？

小学から高校まで県代表として全国大会や合宿に出ているので、全国の子こえる友達がたくさんできたのが良かったです。困ったことは、大会のアナウンスがきこえないため、自分の試合に出るタイミングが掴みにくかったことですね。その時はチームメイトや応援に来てくれた家族が教えてくれていました。

Q. 中高時代はデフリンピックの存在を知っていましたか？(初めて知ったのはいつ?)

中学生の時に上の兄から聞いて初めて知りました。兄もろう者なので、どこかでデフリンピックのことを知ったようです。兄から聞いた時は「私もデフリンピックに出てみたい」と思いました。

Q. デフスポーツと関わって感じていること

デフスポーツを通してろう者の仲間ができるので、きこえない人しか分からない悩みを共有しあえます。競技を引退して数年になりますが、今でも連絡を取り合っているほど大切な存在だと思っています。

デフアスリート
にきいた

中高時代のスポーツ経験



地域の学校を卒業したアスリート

田井 小百合さん

陸上競技／競技歴30年以上

Q. 競技を始めたきっかけは？

子どもの時から様々な運動が得意でした。小5の時、地域の陸上大会に出るために短距離、ハードル、走り幅跳びなどの記録計測をしたところ、特にハードルの記録がとでも良かったので、先生にハードルをやった方がいいよと勧められました。私もハードルが楽しいと思ったので、中1の時から本格的に始めました。

Q. 中高時代、部活動や大会参加においてコミュニケーションはどうしていましたか？

聴力が約30dBの軽度で補聴器をまだつけていなかったで、音声でコミュニケーションをとっていました。ただ、高校の時は陸上の練習場がとでも広く、遠くにいる先生に私の名前を呼ばれても気づかないので、近くにいるチームメイトが教えてくれていました。(現在は、片耳は全くきこえず、もう片方は補聴器をつければきこえる状態です。)

Q. 一般大会に参加して良かった点・困った点は？

補聴器をつければきこえる選手と同じ環境で勝負ができる場所はプラスになりますね。試合前の招集所で名前を呼ばれても分かりにくいので、声を聞き取れる位置で待機するなど工夫していました。ただ、試合の時は補聴器の音量を最大限に上げていたので、風の音や会場の雑音が入ってきてなかなか競技に集中できないので大変ですね。

Q. 中高時代はデフリンピックの存在を知っていましたか？(初めて知ったのはいつ?)

中高時代は知りませんでした。30歳の時に一度競技を引退した直後、病気で聴力が低下したため補聴器が必要となり障害者手帳ももらいました。その時にお世話になった聴覚障害専門の先生との出会いがきっかけでデフリンピックのことを知り、31歳の時からデフリンピックを目指してデフ陸上に転向しました。

Q. デフスポーツと関わって感じていること

いくつかの世界大会に出場して、一般大会にはない独特な雰囲気を感じました。海外の選手とは言葉が分からなくてもジェスチャーで通じることを知って感動しましたね。最初の頃は仲間が手話言語を音声通訳してくれていたので手話言語を覚えなくてもいいと思っていたのですが、チームをまとめる立場になり手話言語を一生懸命覚えました。手話言語はまだですが、手話言語は本当に奥深くて、コミュニケーションをとることの楽しさに気づきました。手話言語で相手に伝わるとやはり嬉しいですね。

手話言語通訳者にきいた

学校体育とデフスポーツの通訳現場

学校体育と部活動、デフスポーツにおける手話言語通訳にはそれぞれの特性があります。学校では教育の視点で指導を行うのに対し、デフスポーツではプロ意識を持ったアスリートを育てる競技団体が中心で、通訳もプロとしてのスキルを求められます。双方の共通点として、スポーツ指導において、動きを見せながら説明する際に同時だと両方を理解できない選手が多いため、動きと説明を分けて指導する必要があります。一方、学校での通訳では生徒が内容を理解できるように伝える努力をしますが、デフスポーツでは、指導者の方針で、選手に自分の力で考え指導者の意図に気づいてもらうために、あえて曖昧な言い方で伝えることがあります。

スポーツ現場に求められる手話言語通訳とは？

- 競技の専門用語、ルールを熟知していること
- 大会参加において、試合進行の全体的な流れを把握できていること
- 大会中の通訳支援が原因で、選手が警告を受けたり失格になってしまうことがないように、大会関係者との連携をしっかりとれていること
- 選手が技術を習得する幅が広く各選手のレベルも違うため、選手の特性を理解できていること
- 選手に合わせたコミュニケーション手段を把握できていること
- 地域登録の派遣通訳とは違い、スポーツ現場では、合宿・遠征に同行することが多いため、体力、精神力、かつ一緒に楽しむ、戦うという気持ちが必要であること

ろう学校の生徒の

学校体育の現状

▶ 情報保障の現状

ろうの生徒は、補聴器や人工内耳を使用したり、手話言語だけでなく音声を活用したりするなど、様々な方法で情報を得ています。多くの学校では、外部に手話言語通訳を依頼する事例として、式典、保護者会、外部講師を招く講演会等、生徒以外の参加者がいる行事が中心になります。また、その依頼にあたり、予算調整も計画立案の必要な要素になっています。

▶ 体育の授業におけるコミュニケーションの工夫

授業では、説明や指示の際には、ホワイトボードを使ったり、合図として旗を使ったり視覚情報での提示を工夫しています。体育館の壁に設置したランプを点滅させることで、競技中の生徒に呼びかける工夫をしている学校も多くあります。



ランプを使用した合図

▶ 地域の学校(小学校、中学校、高等学校)の体育行事への参加

交流教育として、近隣の地域の学校(小学校、中学校、高等学校)の水泳大会やマラソン大会に参加する学校もあります。また、生徒数が少ない学校が集団参加への工夫として行う場合もあります。

▶ コロナ禍におけるコミュニケーションへの影響と工夫

一般のマスクでは口の動きや表情がわかりにくくなり、生徒と教員のコミュニケーションが十分にとれないという影響があります。そこで、授業中に教員が透明マスクやフェイスシールド等を着用する学校が多くあります。



出典: コニ・チャーム公式サイト

▶ 補聴器・人工内耳を装着しての体育参加時の注意

- 在籍数の中の人工内耳装用者の割合は、令和元年度で約3割と10年前の3倍となっています。(全国聾学校長会調査より)
- 補聴器・人工内耳は精密機器のため水に弱く、雨や汗に注意する必要があります。運動後の汗を布で拭き取るなどの手入れが重要になります。
- 衝撃にも弱いため、頭部にボールがぶつかったり、補聴器・人工内耳が外れて落としたりして壊れてしまうことがあります。激しい動きのある運動の際は、外して行うのが望ましいです。

ろう学校の生徒の

一般大会への参加

▶ 生徒に対する情報保障

- 高体連や中体連などの一般大会では、ろうの選手が対象の大会と違い、補聴器着用の禁止はありませんが、大会によっては手話言語通訳者の同伴を認めてもらえないケースが実在しています。また、事前に手話言語通訳者の同伴を大会側に申請したのに、大会の数日前にようやく許可が下りるケースもあり、手話言語通訳者の手配に支障をきたしてしまうという現状があります。
- ろう学校の生徒が一般大会へ参加する際の情報保障は、引率教員が手話言語通訳を行うことがほとんどです。
- 手話言語が分からない生徒もいるため、手話言語通訳だけでなくホワイトボードやノートPCなどを用いた要約筆記通訳も必要になります。また、地域の学校に在籍する生徒への対応も考慮する必要があります。
- コロナ禍におけるマスク着用によってコミュニケーションが難しくなる場面も多くなるため、透明マスクの着用が重要になります。
- 音声を自動認識し文字に変換するコミュニケーション支援アプリを使用するケースもあります。

▶ 地域の学校(中学校・高等学校)との合同チーム

ろう学校が地域の学校(中学校・高等学校)との合同チームで一般大会(高体連)に参加している事例は多くあります。県代表になって上位大会に出場している例もあります。

▶ 地域スポーツクラブへの所属

- ろう学校、地域の学校に関係なく、所属している学校にある競技種目以外のスポーツを行う場合、地域のスポーツクラブに通うケースがあります。
- 中高生に限らず、小学生が地域のスポーツクラブに通い、小学生の一般大会に参加するケースもあります。

第23回夏季デフリンピックに出場、メダルを取った選手4人に、スポーツ活動で困ったことを話していただきました。動画を下記サイトに掲載しています。



<https://youtu.be/PBvezrrD2MM>

スポーツ大会の開・閉会式、表彰式などで斉唱される国歌「君が代」の手話言語版を紹介する動画を下記サイトに掲載しています。



<https://youtu.be/gaA-zti-lyA>

デフスポーツにおける手話言語通訳者の育成等に係る検討委員会 委員名簿

全国聾学校体育連盟	あきはら まさみみ 浅原 正文
全国聾学校体育連盟	あらかわ いくお 荒川 郁朗
国立大学法人筑波技術大学	おおすぎ ゆたか 大杉 豊
一般社団法人日本ろうあ者卓球協会	おおだいら しづや 大平 静也
一般社団法人日本デフ陸上競技協会	かどわき みどり 門脇 翠
一般社団法人全国手話通訳問題研究会	きはら 桐原 サキ
一般社団法人日本手話通訳士協会	くさの まきのり 草野 真範
社会福祉法人全国手話研修センター	こいで しんいち 小出 新一
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 医科学委員	なかじま ゆきのり 中島 幸則
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 委員長	おぐら たけお 小椋 武夫
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 事務局長	しまもと やすのり 嶋本 恭規

(委員名はスポーツ委員会以外は五十音順)

デフアスリートをささえる vol.2

発行日 2022年3月31日

発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会

TEL: 03-3268-8847

FAX: 03-3267-3445

メール: jfd-sc@jfd.or.jp

URL: <https://www.jfd.or.jp/sc/>

1 一般財団法人全日本ろうあ連盟 スポーツ委員会

このガイドブックは、令和3年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」（スポーツに精通した手話通訳者の育成）の一環で作成しました。

【関連情報】

「Deafportal（デフポータル）」

デフスポーツ・デフリンピックの情報を発信する総合ポータルサイトです。最新情報が随時更新されています。 <https://deafportal.com/>



「デフアスリートをささえるVol.1」

<https://deafportal.com/files/R2JSA-Guide%20Vol.1.pdf>



「スポーツ手話ハンドブック」

スポーツ大会や式典、大会運営に関わる人に役立つ用語を中心に幅広い分野の手話を246単語収録、さらにスポーツ関連の情報を掲載しています。
<https://jfd.shop-pro.jp/?pid=132926516>



「デフアスリートをささえる 競技別手話言語通訳ガイド サッカー編」

<https://deafportal.com/files/R2JSA-Football%20guide.pdf>

「聞こえないスポーツ選手の メディカルサポートについて」

聴覚障害ならではの特性や事例などをより深く知っていただくきっかけに作成しました。
<https://www.jfd.or.jp/sc/files/2019/20190329-medical-support.pdf>



「デフアスリートをささえる 競技別手話言語通訳ガイド 自転車編」

<https://deafportal.com/files/R2JSA-Cycling%20guide.pdf>





デフアスリートを ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

[陸上競技編]

Athletics



ごあいさつ

全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長

小椋 武夫



スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

きこえない人がアスリートのプレーをみるためには、スポーツ施設の情報アクセシビリティ向上、放送の字幕・手話言語付与などの整備が進められています。

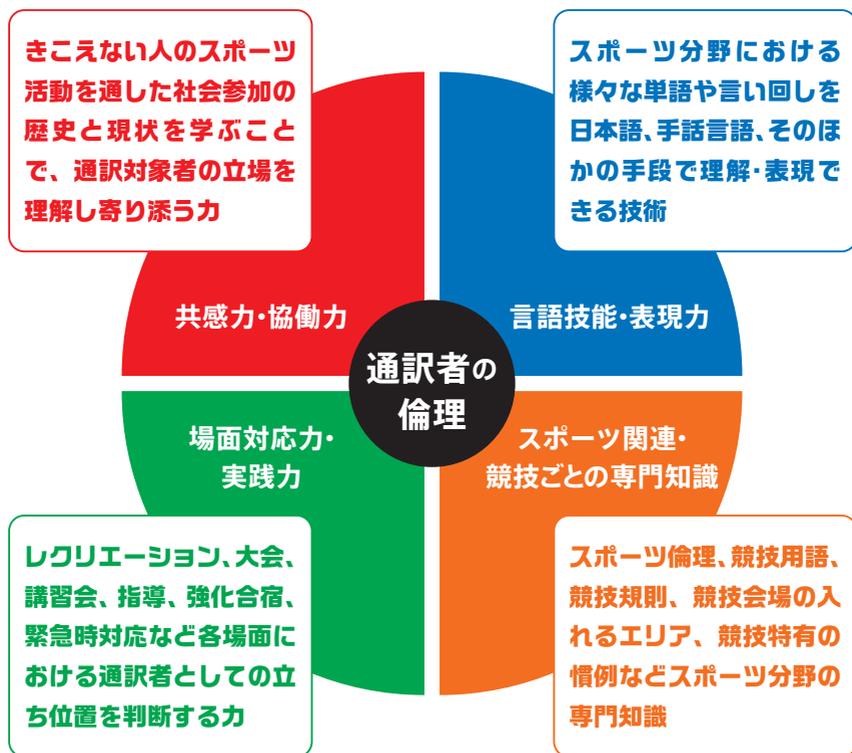
一方、きこえないアスリート（デフアスリート）がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

本委員会が受託しました、スポーツ庁の令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト事業」は、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を主な目的としています。そこで、スポーツ分野で通訳者が準備すべき内容の基礎として、きこえない子どもが最初にスポーツに参加するきっかけとなる学校体育や部活動、そして大会参加について紹介するパンフレットと、専門種目として、陸上競技、卓球競技を解説するパンフレットを製作しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引が役立つことを願っています。



スポーツ分野で 通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」、「言語技能・表現力」、「場面对応力、実践力」、「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このガイドブックでは特に陸上競技に必要な知識を紹介します。



ろう者と陸上競技

競技ルールは一般と同じく世界陸上競技連盟（以下、WA）の競技規則に従って行ないます。そのため、国内ではろう選手が地域の競技会に出場する際に、会場での場内アナウンスの内容や誘導での情報保障、短距離種目(100m～400m)におけるスタートの情報伝達の面で多くの課題が残ります。

ろうの選手が出場するデフリンピック競技大会などの国際大会では国際ろう者スポーツ委員会(以下、「ICSD」)規定により競技中は補聴器を外すルールが定められており、試合出場前の選手招集の際に補聴器を装着していても失格になります。また、競技中はスタートの合図を知らせる光刺激スタートシステム（通称：スタートランプ）を使用します。



選手登録について、公認記録を残すために日本陸上競技連盟(以下、JAAF)の会員である必要があります。在住地域の陸上競技協会への登録を行ないます。ろうの選手はデフリンピック競技大会などのICSD公認大会に出場するためには、これに加えて全日本ろうあ連盟の傘下にある在住地域のろう当事者団体と日本デフ陸上競技協会（以下、「JDAA」）への登録が必要になります。



主な大会

国内大会 (都道府県レベルから全国レベルまで、一般の大会も含む)

- 都道府県の記録会 (都道府県陸上競技協会主催) ●実業団の大会 (日本実業団陸上競技連合主催)
- 中体連、高体連、学連の大会 (全中、インハイ、インカレなど)
- 国民体育大会 (選手選出のため都道府県で選考競技会を行う)
- 日本陸上競技選手権大会 (JAAF主催) ●日本デフ陸上競技選手権大会 (JDAA主催)
- 全国聾学校陸上競技大会 (さらに関東と九州はそれぞれ聾学校陸上競技大会がある)
- 全国障害者スポーツ大会 (日本パラスポーツ協会主催)
- ジャパンパラ陸上競技大会 (日本パラスポーツ協会主催)
- 全国ろうあ者体育大会 (全日本ろうあ連盟主催)

国際大会 (ICSD公認大会)

夏季 デフリンピック 競技大会 (1924年~)

2017年の第23回大会では選手28名、スタッフ12名の総勢40名を派遣し、金メダル2個、銀メダル2個、銅メダル2個を獲得、12名が入賞しました。コロナによる影響で1年延期となった第24回大会が2022年5月にブラジルにて開催される予定です。

世界デフ陸上競技 選手権大会 (2008年~)

第4回大会が2021年8月にポーランドにて開催され、コロナ渦の中ではありましたが、選手7名を派遣し、銀メダル2個、銅メダル1個を獲得、出場選手全員が見事入賞を果たしました。

世界デフ室内 陸上競技選手権大会 (2019年~)

2019年3月にエストニアにて、第1回大会が開かれました。日本からは16名の選手が参加し、岡田海緒選手が1500mにて中距離種目における日本女子初のメダル獲得で銀メダル1個、入賞14という輝かしい成績を収めました。室内大会は日本では浸透されていないにも関わらず、強きヨーロッパ勢に底力を見せつけることができた大会でした。2023年3月に第2回大会がポーランドで開催される予定です。

アジア太平洋ろう者 競技大会 (1984年~)

2015年に第8回大会が台湾で開催され、陸上だけで40名近くの選手を派遣しました。香港にて開催される予定だった第9回大会はデモによる情勢悪化で中止となりました。

陸上競技の基礎知識①

競技種目

陸上競技とは「走・跳・投」のスポーツ全ての基本となる動きです。種目は「トラック」「フィールド」「ロード」の3つに大きく分けられます。トラックは短・中・長・ハードル・リレー、フィールドは跳躍と投擲、ロードはマラソンと競歩がそれぞれ存在します。種目の中には男女で異なるものもあります。

1▶▶▶ [トラック]

●短距離:

100m、200m、400m

●中距離:

800m、1500m

●長距離:

5000m、10000m

●ハードル:

100mH(女)、110mH(男)、
400mH、3000m障害

●リレー:

400mリレー、1600mリレー、
混合リレー



2 ▶▶▶ [フィールド]

- 跳躍**: 走幅跳、三段跳、走高跳、棒高跳
- 投擲**: 砲丸投、やり投、円盤投、ハンマー投



3 ▶▶▶ [混合競技]

トラック種目とフィールド種目の中から選ばれた種目を行います。十種競技、七種競技があります。出した記録に点数が加算され、点数の合計で順位を決定します。

4 ▶▶▶ [ロード]

- マラソン**: フル(42.195km)
- 競歩**: 20km (女子は20kmのみ)、50km



陸上競技の基礎知識②

競技中の服装

1 ▶▶▶ [ウェア]

ウェアには、布地の素材によってレーシングシャツ・タイツ、ランニングシャツ・パンツの2種類に分類されます。レーシングシャツ・タイツは風の影響をあまり受けない、筋肉の保護にもなる体に密着した伸縮性のある素材で、ランニングシャツ・パンツは長時間着ても不快にならないような軽くて通気性の良い素材です。いずれも速乾性の高い動きやすいデザインがされています。

①短距離選手のウェア。
シャツはノースリーブから半袖までである。下はハーフタイツ。



②長距離選手、マラソン選手のウェア。



2 ▶▶▶ [シューズ]

スパイクにも種目の特性を反映させていて種目によって異なります。トラック種目では走距離によってスパイクを変える人もいるほどです。ピンの長さは種目によって異なります。長距離種目はランニングシューズになりますが、WAによる競技規則には厚底靴の規定がありますので、シューズを選ぶときは注意が必要です。

ハンマー投、円盤投、砲丸投では右下のようなスローシューズを履きます。



3 ▶▶▶ [アスリートビブス]

前面と背面にそれぞれ番号の書いたアスリートビブスを付ける必要があります。番号は競技会開催前日までに公開されるスタートリストにて自分の名前前に記載されます。競技会によって用意がある場合と自分で用意する場合があります。

競技用具

砲丸



やり



円盤



棒高跳用ポール



ハンマー



投擲用具の重さの違い？
ハードルの高さの違い？

Column

投擲種目は性別、18歳以下といった年齢によって用具の重さに違いがあります。また、ハードル種目(100mと110m)においても18歳以下と一般(大学生以上)では高さが変わります。



陸上競技の基礎知識②

基本ルール

1 ▶▶▶ [追い風参考記録]

100m、200m、走り幅跳び、三段跳びで、選手の後ろから風速2mを超える風が吹いた場合に記録を公認とせず、参考記録(追い風参考記録)としています。 **例) 100m 11秒21(+2.1)参考記録**

2 ▶▶▶ [フライング(不正スタート)]

スタート合図前及び合図後0.1秒以内(装置が判断)に地面から手が離れスタート動作に入ってしまうとフライングと判定され失格(DQ)となります。

3 ▶▶▶ [予選ラウンド]

トラック競技では、最大3ラウンド(予選、準決勝、決勝※参加者多数の場合は予備予選を設定)を勝ち抜き順位を確定させます。例として予選4組32名の参加の場合、準決勝へ16名が進出するには、各組3着までに入り、且つ全体の4着以下のタイム上位4名が準決勝進むことができます。(プログラム表記:4組3着+4)。フィールド競技では、「予選通過標準記録」を設定し、その記録を超えた選手(12名に満たない場合は記録順に12名)が決勝に進出できます。

4 ▶▶▶ [セパレートレーンとオープンレーン]

400m以下(4×400mリレーを除く)の距離では、スタートから同じレーン(セパレートレーン)を走行しなければなりません。800mではスタート後ブレイクライン(100m先)を超えたらどのコースを走っても良いことになっています(オープンレーン)。1500m以上はすべてオープンレーンとなります。

5 ▶▶▶ [ハードル競技の高さとルール]

100mH(女子:83.8)、110mH(男子:1.067)、400mH(男子:91.4,女子:76.2)

10台のハードルを飛び越える際に、故意に倒した場合や足(脚)がハードルの外側を通っても構わないが、低い位置を通過すると失格となります。

6 ▶▶▶ [リレー競技のルール]

4×100mリレー、4×400mリレー、近年では男女混合で走るユニバーサルリレー(4×400mR)がある。前走者から次走者へバトンを渡す際、テイクオーバーゾーン(30m)内で受け渡さなければなりません。

7 ▶▶▶ [アスリートビブス、コール]

選手は、競技開始前(大会にもよるが概ね40分～50分前)に競技者係に出場の意思を示すコールをおこなわなければなりません。その際、自分の競技者番号となるナンバーカード(アスリートビブス)を着用し提示する必要があります。コールに遅れた場合は失格(DNS)となります。



陸上競技における情報伝達機器

※2022年3月現在

① スタートランプ

スタート合図を光で伝える装置。



「On your marks」

「Set」

「Bang!」



選手が見やすい場所に設置することができる

② フライング伝達ランプ

フライング(不正スタート)※10Pに説明有り を知らせる装置。フライングがあると、ピストルを2～3回鳴らして選手に伝えますが、きこえない選手は気付かずに走り続けてしまうため、光で制止する装置です。



バスケットやバレーでも使用が可能

③ スタンディングスタートランプ

スタンディングでスタートする時に使用するランプ。360°どこからでも見えるように設置することができるため、観客への情報保障にもなるように設置します。



「On your marks」

「Bang!」



スターターの近くに設置

国内大会のみになりますが、貸出を行なっています。
使用希望者はJDAのHPにある「スタートランプ支援基準規定」を熟読の上、お申し込みください。

競技当日の動き

競技開始前

1 ▶▶▶ [競技会指定のウォーミングアップエリアにてウォーミングアップ]

- 行うタイミング、かかる時間には個人差があります。
- その間にレーシングウェアに着替えます。着替えのタイミングも個人差があります。

2 ▶▶▶ [招集所(コール)に行ってアスリートビブスとレーシングシューズの確認を受ける]

- トラック種目は競技開始30分前～20分前、フィールド種目は競技開始40分前～30分前より招集を行いますので、それまでに招集所に行きます。
- 競技会によっては写真①のように時間内に自分のタイミングで確認を受ける場合と、組とレーン、アスリートビブスの番号が音声で呼ばれて行う場合とあります。

3 ▶▶▶ [競技実施会場近くまで移動]

- 競技を行う場所に移動します。
- 移動後にもう一度最終コール(写真②)があります。



競技開始直前

- トラック種目(スタートとゴールが異なる種目)は競技会によりますが、荷物を補助員がゴールまで運びます。
- トラック種目は出場する組が回ってくるとスタートラインまで誘導があります。
- トラック種目はスタートブロックの調整などスタート直前に準備を行います。
- フィールド種目は何本か試技(練習)を行った後に本番を行います。
- 競技開始前には出場選手の紹介アナウンスがあります。
- フィールド種目は競技中にも試技の順番や記録について審判員が度々アナウンスを行います。



競技会での手話言語通訳任務

陸上競技は、助力^{※1}（競技中の選手にコーチングエリア外からアドバイスをするこ
と等）を厳しく禁止するというルールがあり、それは手話言語通訳者であっても禁止さ
れています。大会中の手話言語通訳は、審判と選手の間に入り審判からの指示伝達、選
手からの質問、抗議に対して通訳をすることが主な任
務となります。選手に付き添う形で招集所、競技中
において通訳に入っていくことがあります。主に、
出発係、競技者係、跳躍審判、投擲審判において通訳に
入る場面が多いです。その際の通訳者の立ち位置や
伝達すべき情報の範囲などについては選手の希望に
よって決めることが多いです。

出場する選手より希望があれば、例年、「デフ陸上競
技 競技運営マニュアル」^{※2}と合わせて事前に審判員
への説明をおこない、選手に連絡する場合は必ず手話
言語通訳者を呼ぶようにお願いしています。



100mの競技開始前の注意事項を通訳の様子



跳躍競技中、審判員が読み上げた記録を通訳の様子

※1 助力…

(公財)日本陸上競技連盟 競技規則 第144条

競技者(選手)が医療的な援助を受ける場合以外は、競技者がひとたび招集所を出た後は、他者による介助
や手助けは、競技開始前であろうと競技中であろうと、助力である。

競技区域内でのスマホ使用やコーチングエリア外からのアドバイス、規定以上の厚底シューズなども助力に適用されます。

◆スタートランプを使用する際の助力について (IAAF規則) ※国内の適用

聴覚障害を有する競技者で、他の障害を有しているとはみなされず、IAAFのルールに基づいて行われて
いる競技会に参加している者に対しては、スタート時における光の使用が認められるべきであり、また
(それは)助力であるとみなされるべきでない。

→スタートランプを使用しても助力とは認められず、公認記録となる。

※2 デフ陸上競技 競技運営マニュアル…

日本デフ陸上競技協会が、ろうの選手の試合出場の際の配慮をお願いするために作成したマニュアル。スター
トランプの使用方法や手話言語通訳に関することなどを記載している。マニュアルについてのお問い合わせ
は日本デフ陸上競技協会まで。

陸上競技の用語と手話言語表現

▶ 種目用語

トラック



指文字「と」を両手で作り、胸前で合わせてからそれぞれ外に半周回してまた合わせます。

フィールド



指文字「ふ」を両手で作り、胸前で合わせてからそれぞれ外に半周回してまた合わせます。

競歩

- 親指を立てた右手と左手を交互に前後に動かして「競う」の手話。
- 人差し指と中指を動かして歩く動き。



ハードル

- 人差し指は若干曲げて、中指を立てて、ハードルを飛び越えるように。



3000m 障害

- 3の数字を作って漢字の「千」を描きます。
- 人差し指で「S」を描きます。● 指文字の「C」。



走高跳

- 走る手話。
- バーを頭から跳び越えるので2本指は足をイメージして手の甲を前に向けて左手で作ったバーを跳び越えるように。



走幅跳

人差し指少し手のひらから離して中指で前に跳ぶように。



三段跳

3の数字を作って地面の上を2回飛び跳ねるように。



棒高跳

● 両手でグーを作って中心からそれぞれ双方向に伸ばしてボールを表現。● 高いところ(目線の高さ)にバーを作って頭から落ちるイメージ



砲丸投 (投擲も同様)

肩の上から鉄球を斜め上に投げるように。



▶トラック種目用語

円盤投

上から円盤を掴んで身体の横から前に投げるように。



スタート ブロック

足を乗せるブロックを表しています。できるだけ右手と左手の位置をずらして。



ハンマー投



取っ手を持って1周ほど回して投げるように。

スタート ランプ



①「スタート」の表現。立てている手を前に動かします。②③装置から光が出ているように光の表現は開く動作は2回ほどします。

やり投

指文字の「や」を作って遠くに飛ばすように。



フライング

アルファベットの「F」を表現します。トラック種目でスタート時に2つ目のピストルが鳴った場合にフライングとなります。



▶フィールド種目用語

ファウル

レッドカードを出すような動作をします。フィールド種目でよく使われます。



撮影協力

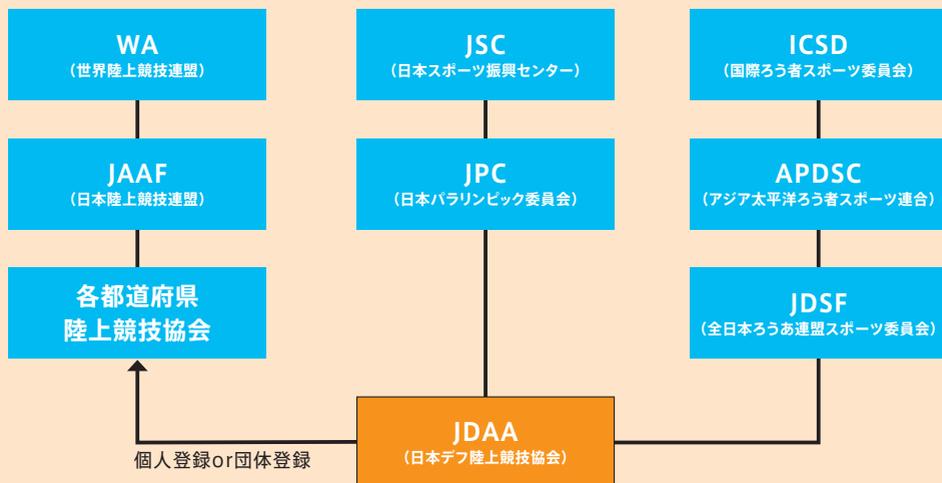
2021夏季デフリンピック競技大会日本代表
()は出場予定種目

岡田海緒(800m,1500m)

佐藤湊(棒高跳)

山田真樹(100m,200m,400m)

[組織]



一般社団法人日本デフ陸上競技協会

我が国における聴覚障がい者の陸上競技の総括団体として2002年4月6日に設立。陸上競技を通じて聴覚障がい者スポーツの普及・振興を図り、広く国民の心身の健全な発展に寄与することを目的として活動している。主な事業内容は、日本デフ陸上競技選手権大会の運営を行う競技会事業、国内のきこえない選手の強化・育成を行う強化関連事業、スタートランプなどの競技会導入を目指した普及活動、ジュニア育成のための陸上教室の企画と運営など。

[編集協力]

一般社団法人日本デフ陸上競技協会

<http://www.j-daa.or.jp/jdaa/>

デフアスリートをささえる

競技別手話言語通訳ガイド [陸上競技編]

このガイドブックは、令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」（スポーツに精通した手話言語通訳者の育成）の一環で作成しました。

発行日 2022年3月31日

発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会

TEL: 03-3268-8847

FAX: 03-3267-3445

メール: jfd-sc@jfd.or.jp

URL: <https://www.jfd.or.jp/sc/>

[参考情報]

日本デフ陸上競技協会 (JDAA)
<http://www.j-daa.or.jp/jdaa/>

日本陸上競技連盟 (JAAF)
<https://www.jaaf.or.jp/>

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 (JDSF)
<https://www.jfd.or.jp/sc/>



デフアスリートを ささえる

競技別手話言語通訳ガイド

[卓球編]

Table tennis



ごあいさつ

全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会委員長

小椋 武夫



スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

きこえない人がアスリートのプレーをみるためには、スポーツ施設の情報アクセシビリティ向上、放送の字幕・手話言語付与などの整備が進められています。

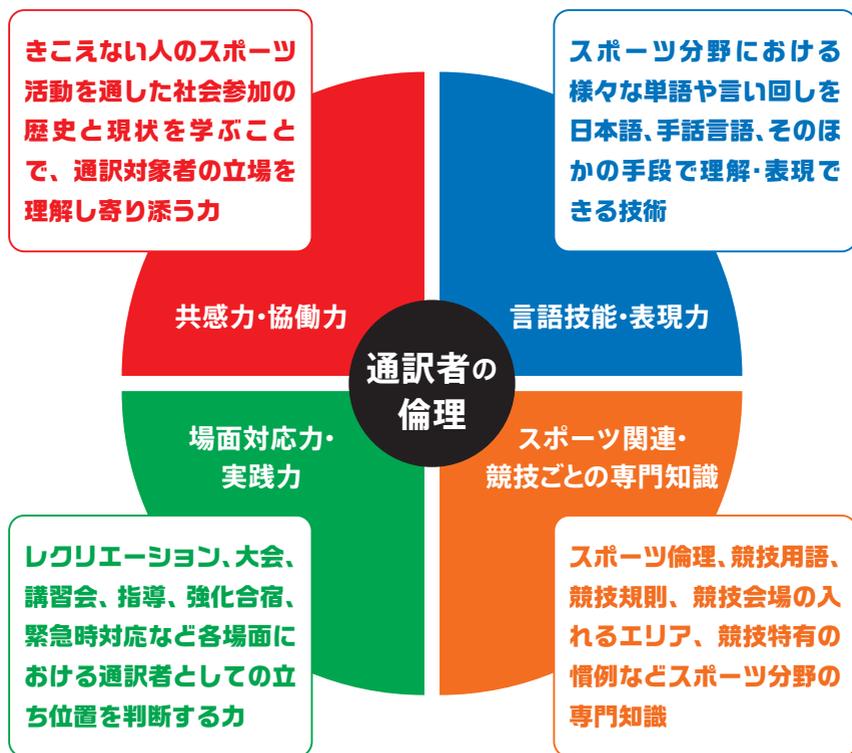
一方、きこえないアスリート（デフアスリート）がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

本委員会が受託しました、スポーツ庁の令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト事業」は、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を主な目的としています。そこで、スポーツ分野で通訳者が準備すべき内容の基礎として、きこえない子どもが最初にスポーツに参加するきっかけとなる学校体育や部活動、そして大会参加について紹介するパンフレットと、専門種目として、陸上競技、卓球競技を解説するパンフレットを製作しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引が役立つことを願っています。



スポーツ分野で 通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」、「言語技能・表現力」、「場面对応力、実践力」、「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このガイドブックでは特に卓球競技に必要な知識を紹介します。

ろう者と卓球競技

卓球競技には男子団体、女子団体、男子ダブルス、女子ダブルス、混合ダブルス、男子シングルス、女子シングルスの7種目があります。

競技ルールは一般と同じで世界卓球連盟（以下、ITTF）の競技規則に従って行ないます。そのため、国内ではろうの選手が地域の大会に出場する際に、会場でのルール説明、場内アナウンスの内容や誘導での情報保障の面で多くの課題が残ります。

ろうの選手が出場するデフリンピック競技大会などの国際大会ではICSD(国際ろうスポーツ委員会)規定による補聴器を外すルールが存在し、競技エリア内で補聴器を装着していると失格になります。

選手登録については、デフリンピックなどの国際ろう者スポーツ委員会(以下、ICSD)出場のためには、全日本ろうあ連盟、日本卓球協会、日本ろうあ者卓球協会の会員である必要があり、それぞれ在住地域の協会での登録が必要になります。



主な大会

① 国内大会 (全国レベルまでの一般の大会も含む)

- 国民体育大会 (日本スポーツ協会主催)
- 全国障害者スポーツ大会 (日本パラスポーツ協会主催)
- 全日本卓球選手権大会 (日本卓球協会主催)
- 中体連、高体連、日学連、実業団、Tリーグの大会 (日本卓球協会傘下団体)
(全中、インハイ、インカレ、マスターズ、レディース、Tリーグ等)
- 全国ろうあ者体育大会 (全日本ろうあ連盟主催 / 1967年～)
- 全国ろうあ者卓球選手権大会 (日本ろうあ者卓球協会主催 / 1978年～)
- 全国ろうあ者卓球リーグ戦 (団体、個人) (日本ろうあ者卓球協会主催 / 2013年～)
- 全国聾学校卓球大会 (1964年～) (全国聾学校体育連盟主催)

この他にも、これらの全国組織の傘下団体 (都道府県及び市区町村の協会) が主催する大会も多くあります。

② 国際大会 (ICSD公認大会)

- 夏季デフリンピック競技大会
- 世界ろう者卓球選手権大会 (2008年～)
- 世界ユースろう者卓球選手権大会 (2023年～)
- アジア太平洋ろう者競技大会

卓球の用具

1 ▶▶▶ [卓球台について]

国際卓球連盟と日本卓球協会が公認している卓球台の公式規格サイズは、長さ274cm、幅152.5cm、高さ76cmのテーブルで、ネットの高さは15.25cmです。略して「台」とも呼びます。材質は木と決められている訳ではありませんが、競技用には木製のものを使用しています。

サイズが中途半端な数値になっている理由は、長さ9フィート、幅5フィートと決めたものを、途中からメートル法に切り替えたためです。エンドラインとサイドラインは幅2cm、センターラインは幅3mmで、これらのラインはすべて白線です。1921年に日本で最初の卓球ルールが作られたときには、卓球台の色は濃緑色でした。

国際ルールが「ダークカラー」であったことから、日本では「暗色」と誤解し、1989年まで暗い色を使用していましたが、「濃色」と理解してからは明るいブルー、またはグリーンが卓球台に使われるようになりました。



2▶▶▶ [ラケットの種類とラバーの特徴(写真)]

ラケット



シェークハンド



ペンホルダー

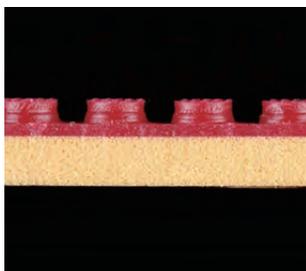
ラバー



裏ソフトラバー

回転がかりやすい

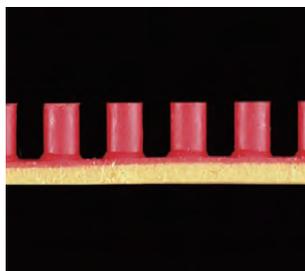
引っかけやすい特性である。



表ソフトラバー

スピード重視

球離れが速い特性である。



粒高ラバー

独特の変化が出せる

粒が曲げやすい特性である。

卓球の戦型

ドライブ主戦型



裏ソフトラバーを使いトップスピンをかけたドライブ打法を中心に戦う戦型

前陣速攻型



台の近くでピッチの速さで勝負する。スマッシュを中心に戦う戦型

カット主戦型



台から離れてバックスピンをかけたカット打法で戦う戦型

卓球のボールは直径40mm、重さは2.7gで、またはプラスチック製で、色はホワイト、またはオレンジ色の球体と定められています。

1924年の第1回大会から2000年の大会まで、直径38mmのボールが世界選手権で使われていました。その後「もっとラリーが続き観客に見やすくしたい」という理由で、球速・回転変化とも少し低下する40mm玉を使うルールに改正されました。

また以前はセルロイド製のボールが使用されていましたが、2015年からプラスチック製のボールに変わりました。

プラスチックは、従来のセルロイドに比べ、ボール自体が弾まず、回転もかかりにくくなり、エキサイティングなラリーが増えました。



卓球の基本技術

サービス

広げた手の平にボールを置いて、真上に16cm以上トスし、ボールが落ちてくるところを打球します。回転やスピードなどの変化をつけるため、多様なサービスがあります。

回転の種類: 下回転、上回転、横回転、横下回転、横上回転、ナックルなど

〈サービスの出し方の例〉



レシーブ

相手の強打を防ぐレシーブや、ポイントを狙う攻撃的なレシーブなど、様々なレシーブがあります。

ストップ: 相手の台上で2バウンド以上するように返す

フリック: 台上で小さくはじくように打つ

チキータ: バックハンドを使い、台上で横上回転をかける

ミュータ: バックハンドを使い、チキータとは逆の回転をかける

打法

フォアハンド、バックハンド、スマッシュ、ブロック、ショートなど様々な打法があります。

ツツキ: 下回転のボールに対して、打球面を斜め上に向けて「突つつく」ように打つ

打法ドライブ: ボールを上方向にこすり上げて、強い上回転をかける打法

カット: 台から離れて、相手のドライブボールに対しラケット上から下に振り、強い下回転をかける打法

裏面打法: ペンホルダーラケットの裏面に貼ったラバーでバックハンドを行う打法

卓球のルール

① 試合の流れ

1試合（1マッチ）は3ゲーム、5ゲーム、7ゲームなどで行われます。試合ではトスを行い、サービス（またはレシーブ）、エンドを決定してから行います。サービスは2ポイントごとに交替し、11ポイント先取で1ゲームが終了します。ただし、10対10になった場合（デュース）では、サービスは1ポイントごとに交替し、2ポイント差になるまで行います。次のゲームではエンドを交替します。フルゲームの試合の場合、最終ゲームではどちらかが5ポイント先取した後、エンドを交替します。

② 打球のルール

サービスは、ボールを投げ上げてから打球する瞬間まで相手にはっきり見えるようにしなければなりません。手や体でボールを隠した場合はミスとなります。ラリー中のネットイン（ネットに当たって相手コートに入る）は正規の返球となります。サービスの場合はノーカウントでやり直しをします。打球が相手コートの縁（エッジ）に当たった場合も正規の返球となります。ただし、台の側面（サイド）に当たった場合はミスとなります。打球時にラケットではなく手に当たった場合は、手首より先なら正規の返球としてみなされます。打球時にフリーハンド（ラケットをもっていない方の手）が台に触れた場合はミスとなります。

③ アドバイスのルール

試合では、選手は決められたアドバイザー（団体戦ではチーム誰からでも）からアドバイスを受けることができます。現在、大学生や一般の試合では、競技の進行遅らせることがなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイザーからアドバイスを受けることが認められています。しかし、高校生以下の大会では、選手がアドバイスを受けることができるのは、ゲーム間の1分間の休憩中やタイムアウト時に限られています。ゲーム中のアドバイスと受け取られる発言やゼスチャーについては警告が出され、くり返されるとアドバイザーは退場となります。



④ダブルスのルール

ダブルスではパートナーと交互に打球します。ゲームごとにサーバー、レシーバーの組み合わせを交替して行います。フルゲームの試合の場合、最終ゲームではどちらかが5ポイント先取した後、エンドおよびレシーバーを交替して偶数ゲームと同じサーバー、レシーバーの組み合わせで行います。

⑤バッドマナーについて

選手、監督、コーチ、アドバイザーが、大声で叫ぶ、汚い言葉を使う、相手競技者を威嚇する、故意にボールを潰したり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う、競技役員の指示を無視するなどの行為がバッドマナーとなります。バッドマナーに対しては、1回目はイエローカードが提示され警告されますが、くり返される場合は対戦相手にポイントが与えられることもあります。



試合前後には握手する



ネットインなどラッキーな得点をしたときには軽く手を挙げる

写真提供：卓球王国

卓球での手話言語通訳の任務

卓球の試合では、ゲーム間の1分間にベンチコーチからアドバイスをすることができます。(大会によってはできない場合もあります) 時間が限られているため、短時間で伝えたい情報を的確に選手に伝えなければいけません。

サービス、レシーブの種類やコース、相手の戦型に応じた戦術などを正確に伝えるには、通訳者も卓球に関する知識を持った上で通訳することが必要です。『フォア前のサーブ』と言ったときに、どちらが出したサーブか、どんな回転のサーブか、どの場面のことかを理解した上での通訳が大事です。

また、頻繁に使用する言葉(例えば下回転、横回転、ナックルなど)はあらかじめ選手とサインを決めておいて通訳するのも良いでしょう。

Point!

アドバイスの注意

大学生や一般の大会では、競技を中断することがなければ、ゲーム中のアドバイスも認められています。そのため、競技中に監督やコーチの発したアドバイスを通訳し、選手に伝えることは必要です。

しかし、高校生以下の大会では、決められた時間以外のアドバイス(ゼスチャーを含む)は禁止されています。試合が白熱し、思わず監督が口に出した言葉などを通訳して選手に伝えると、アドバイスとみなされ警告を受ける場合もあります。



合宿や講習会では、講師が技術を披露しながら解説する場面があります。講師のラケット位置や角度が選手から見えるよう、遮らない位置に立ち、通訳を行います。

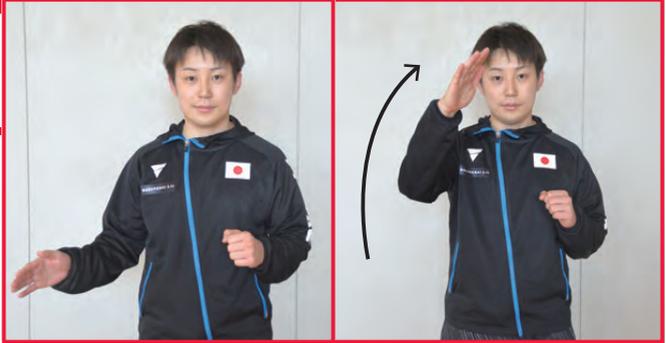
選手の技術力や知識によって理解力が異なるので、選手の様子を見ながら、必要なら図示するなどの工夫が必要です。



卓球の用語と手話言語表現

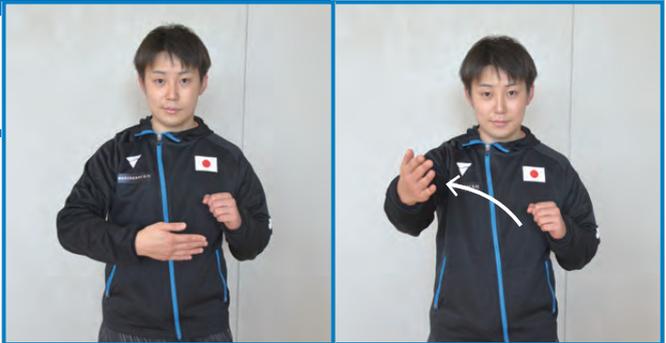
フォアハンド

手の平でボールを打つ
イメージ



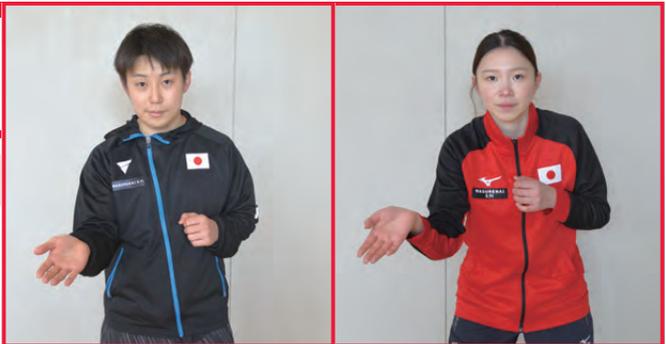
バックハンド

手の甲でボールを打つ
イメージ



ツッツキ

手を前に刺すイメージ



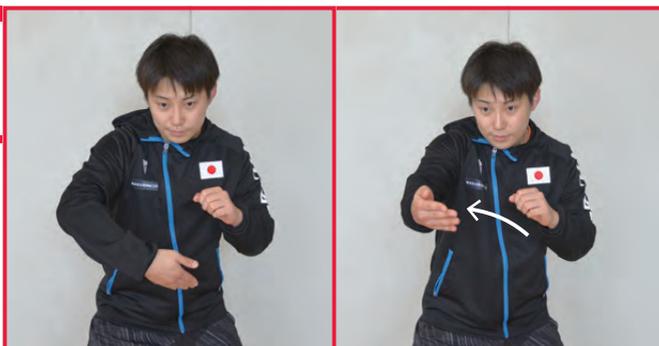
ドライブ

手を挙げるイメージ



チキータ①

手を下から曲げるように上げるイメージ

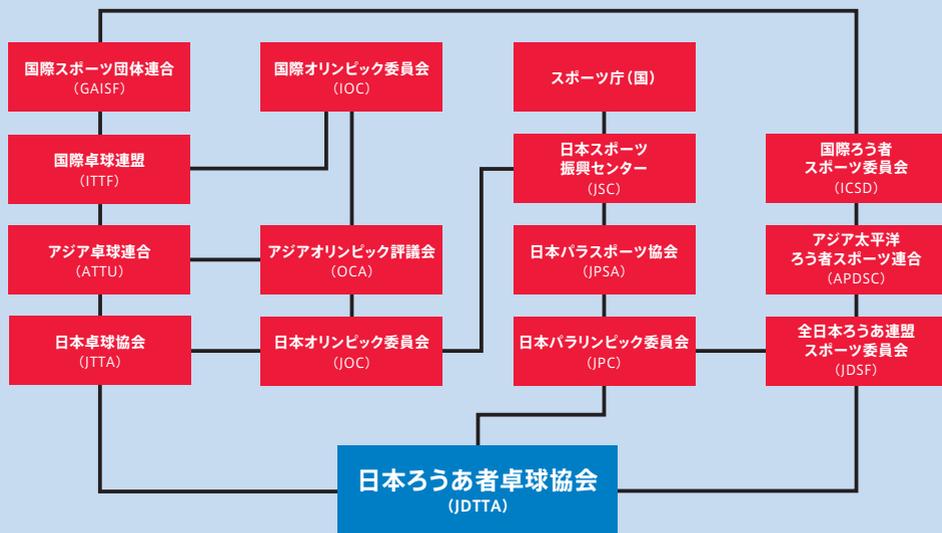


チキータ②

手を下から曲げるように上げるイメージ（手の形をLの字にする）



[組織]



一般社団法人日本ろうあ者卓球協会

一般社団法人日本ろうあ者卓球協会は、1995年9月10日に行われた茨城県水戸市での全国ろうあ者体育大会の後、全国の卓球仲間が集まる中で、日本の聴覚障害者卓球競技を代表する唯一の競技団体として初めてスタートしました。その後、2003年3月に公益財団法人日本卓球協会へ加盟、2006年4月に日本パラリンピック委員会へ加盟し、2012年4月に一般社団法人へ移行しました。

[編集協力]

一般社団法人日本ろうあ者卓球協会

デファスリートをささえる

競技別手話言語通訳ガイド【卓球編】

このガイドブックは、令和3年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導等に係る競技別の標準化・マニュアル作成等）」（スポーツに精通した手話言語通訳者の育成）の一環で作成しました。

発行日 2022年3月31日

発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会

TEL : 03-3268-8847

FAX : 03-3267-3445

メール: jfd-sc@jfd.or.jp

URL : <https://www.jfd.or.jp/sc/>

[参考情報]

日本ろうあ者卓球協会 (JDTTA)
<https://www.jdttta.com/>

日本卓球協会 (JTTA)
<https://jttta.or.jp/>

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 (JDSF)
<https://www.jfd.or.jp/sc/>

令和3年度スポーツに精通した手話言語通訳者養成オンライン研修会 (2022年2月26日 (土) 14:00～15:30) 参加者アンケート結果

#	今日の研修会はいかがでしたか？	パンフレット「デフスポーツを支えるVol.2」についてご意見をください。(400文字まで)	パンフレット「陸上編」についてご意見をください。(400文字まで)	パンフレット「卓球編」についてご意見をください。(400文字まで)	その他、何か気が付いたことがあれば自由にお書きください。(400文字まで)
1	とても良かった	・指導現場、アスリートの経験は参考になるので良い。	・幅とびの時にスタンドからコーチが声をかける。踏切が合ってるかどうか、確認する。 ・長距離では、ペース配分や、1週のラップタイムを伝える。といった、情報保障をどんな風にしていくか、具体的な例示があるとよい。	・下回転、上回転、横回転、横下回転、横上回転の違いがわかりません。よく出るので選手とサインを決めておくとよいとあったので、回転の図示または、手話表現(サイン)例があると良いです。 ・12P 「『フォア前のサーブ』と言ったときに、どちらが出したサーブか、どんな回転のサーブか、どの場面のことか → 知識がない私には、まったくわかりませんでした。答えがあると良いと思います。	・専門用語や手話表現は、なるべく例示されていると認識 ・内容ではなくZOOMの画面表示についてです。バネラーの背景がぼかされている場合に、体からはみ出した手話表現の手もぼかされる(最初の荒川さん)ときと、手はボケずにクリアに見える(竹見さん)がありました。背景のぼかし方によるのか、ZOOMのバージョンによるのか、違いはどこにあるのか気になりました。
2	良かった	・プリントした資料が、「写真」という文字で写真の表示がなかった。質問の回答箇所が例えば「260W●○○○」などの表示で分からなかったのは、これから作成ということでしょうか。 説明に参加できなかったのが、的外れでしたら失礼いたします。 ・P4「聖光大学の情報保障の様子」①②のスクリーン(スクリーンがある事は分かります)やスタートランプがはっきり分かったと効果的な説明になると思います。	・例えば、P4、P5のトラックとフィールド、ロード競技に写真紹介がありますが、紹介写真を載せるのであれば「やり投げ」「競歩」も含めて全て載せることができればよいと思います。「トラック」は全て掲載のあり、「フィールド」と「ロード」が一つずつ写真が無かったのは実際に競技が無いのか、単に紙面の面積なのか、写真サイズで協議のアピールに何か意図があるのかなど色々考えました。	・P10「卓球のルール」①は「試合の流れ」となっていますが、内容は主に得点内容になっていると感じます。 でしたら、「得点と流れ」のように、内容が一目でわかるようになると見やすいと思います。勝敗の内容が不明に思います。例えば、「2ゲームまたは、3ゲーム、5ゲーム先取で勝利。」というような内容も欲しいです。 ・卓球の試合はよく観ますが、「エンド」という言葉は初めてでした。エンド(コート)とあると分かりやすかったです。 ・②「卓球のルール」の()内の説明がわかりやすいです。卓球のルールの中に、「タイムアウト」の回数、時間なども競技のよって異なるので必要かと思えます(③アドバイスのルールの中にタイムアウト時のアドバイスとして書かれています)…時間と回数は、やはり、卓球のルールに欲しい内容かと思えます)。	・パンフレット作製に関して、できるならば現在の出版物の企画A4サイズにして、文字も大きくしてもらえると見やすいと思います。 ・専門用語に写真が付いていますが、正確な手話単語表現の為に、例えば手話学習時点のような文字での説明があると更に分かりやすいと思います。 ・途中の参加で内容が合っているか分かりませんが、「速攻」の通訳をしてセンター相手にブロックが集まってしまった。というところがありました。健聴者の試合でも相手に見えないように速攻のサインを味方提示します。また、自己チームだけのサインを使ったりします。現場の指導に役に立てることがあると思えました。 ・研修参加に関して、ウェビナーIDとパスワードの次に自己の「アドレス」と「パスワード」が必要でした。自己のパスワードを間違えてブロックになり研修参加が大幅に遅れてしまいました。準備不足でした。
3	良かった	・P10「卓球のルール」①は「試合の流れ」となっていますが、内容は主に得点内容になっていると感じます。 でしたら、「得点と流れ」のように、内容が一目でわかるようになると見やすいと思います。勝敗の内容が不明に思います。例えば、「2ゲームまたは、3ゲーム、5ゲーム先取で勝利。」というような内容も欲しいです。 ・卓球の試合はよく観ますが、「エンド」という言葉は初めてでした。エンド(コート)とあると分かりやすかったです。 ・②「卓球のルール」の()内の説明がわかりやすいです。卓球のルールの中に、「タイムアウト」の回数、時間なども競技のよって異なるので必要かと思えます(③アドバイスのルールの中にタイムアウト時のアドバイスとして書かれています)…時間と回数は、やはり、卓球のルールに欲しい内容かと思えます)。	8ページはとても大事な内容が書いてあるが、タイトルが「ろう者と陸上競技」だと少し曖昧なので「ろう者が陸上競技に参加する際の注意点」「ろう者が陸上競技に参加する時に気をつけること」など具体的に書いた方が読み手の注意を引きつけられると思う。	陸上競技編と同じく、4ページのタイトルは(ろう者が陸上競技に参加する際の注意点)(ろう者が陸上競技に参加する時に気をつけること)(ろう者が卓球競技に参加するには)などとした方が分かりやすい。	スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を目的としたパンフレットを作ることなので、質疑の意見にあつたように、現場で実際にスポーツ競技の手話通訳をした方の、マニュアルにはなかったちょっとした気づきや感想、意見、課題、問題点を掲載するのはとても参考になると思う。 今回スポーツに特化した研修会への参加は初めてでしたが、デフアスリートが通訳者の行為によって失格にならないよう、また情報を正確に伝えるためにも、通訳者が競技ルールもきちんと知っておかなければならないことをパンフレットを見て痛感しました。
4	とても良かった	デフスポーツに興味を持てる内容です。	陸上競技の内容がよくわかり、通訳上で注意する内容が分かりやすいです。	卓球のサーブの種類などルールがよくわかります。	通訳の経験談を聞いて、選手のために行う通訳が担う役割の大切さに気付かされました。教育と指導の違いや選手的能力を引き出すために考えて行っている指導が通訳を通して大きく影響することを知り言葉伝える大切さを感じました。今後、スポーツ通訳者として関わられるようになりたいです。
5	良かった	スポーツ関係通訳の初心者です。パンフレットにある「通訳者の倫理」をまとめた図がよくできていると思いました。一つひとつの内容を具体的に理解し身に付けるためには、地道な経験を積み重ねるしかないと感じています。	特にありません。	特にありません。	パンフレットはコンパクトにまとまっており、通訳のきっかけとして役立つと思います。ただ、経験を重ねるうちに困りごとや対応の戸惑いなどに対し、具体的な事例がほしいと感じました。
6	とても良かった	指導現場の話やスポーツの経験談などが掲載されていて良いと思います。またQRコードでの情報も良いと思います。	陸上に関する用語(カタカナ語)の手話表現があれば良いと思います。通訳時、指文字などで伝えなければならないときは、表現間違いや読み違いが起こる可能性があります。大会の時などの通訳時にスムーズに正確に通訳できると思います。表現のページをつくり掲載してはどうでしょうか？新しい手話単語は別の分野と思いますが、意見として書かせていただきました。	卓球の用語と手話表現のページにQRコードを載せて、動画を見られるようにすれば正しい表現が分かると思います。	参加させていただいて良かったです。私も通訳の立場からのコメントがあれば良いと思います。実際あった事例等を掲載すれば参考になると思います。各競技ごとに掲載するのも参考になるし、通訳者のコメントとして一冊あっても良いと思います。今日お話しくださったバネラーの方々の深い内容や、(竹見氏のお話に感動しました。)「こんな大変なことがありましたやあって良かったです。」みたいなものまで掲載して、まずは読んでもらいたい是非やってみようと思ってもらうことが大事だと思います。ありがとうございます。
7	良かった	教育現場に一般の通訳者が携わる機会とはほとんどないよう見受けられるので、社会一般や保護者などへの啓蒙活動としてはよいと思いますが、「スポーツに精通した通訳者養成」としては、Vol1の方が教育現場も含めて全体的な様子が網羅されているので把握しやすと感じました。(インタビューの回答次第では、異なってくるかもしれませんが)	競技の概要を理解するにはとても役立つと思います。ただし、手話表現はここには掲載せずに別にし、内容を手話通訳の際に最低限必要な規程やルールに限ってもよいのかなと思いました。この限られた紙面で必要な手話単語をすべて学ぶことはできないからです。	競技の概要を理解するにはとても役立つと思います。ただし、手話表現はここには掲載せずに別にし、内容を手話通訳の際に最低限必要な規程やルールに限ってもよいのかなと思いました。この限られた紙面で必要な手話単語をすべて学ぶことはできないからです。	この企画が日本のパラリンピック開催を一番の目的としているのであれば、是非、全ての開催競技でこのようなガイドブックを作成していただきたいです。また、通訳者を実際に育てるのは競技団体なので、競技団体に対してもその辺りの働きかけが早いうちから必要かと思いました。
8	とても良かった	これからデフスポーツの通訳に関わりたい初心者向けに、各競技の特性に合わせた通訳場面でのアドバイスをもう少し欲しいかなと感じました。それと、Part5で「UDトーク」をコミュニケーション方法として記載されています。基本必要ないかも考えますが、このパンフレットが最終的に不特定多数の人にいきわたると考えれば、パンフレット内にUDトークのURLの記載があれば親切かなと思いました。	手話通訳任務(P13)最下段にマニュアルの説明がありますが、競技団体の許可があればこのURLの記載が欲しいと思います。	卓球は詳しくなかったのでアドバイスのルール、特に通訳者の任務と記載されている部分には驚かされました。もう少しこの部分に内容を加えてほしいと思います。	少ないページで伝えたい気持ちを感じられるパンフレットだと思います。ただ、このパンフレットはどこで誰に渡すのかなと感じました。どの場面でこのパンフレットを活用すると効果的なのか戸惑う所があります。通訳経験の少ない人がこのパンフレットを通訳の拠り所の一つするには物足りないように感じます。事前知識としては必要だと思います。講演の最初と通常の派遣通訳とスポーツの通訳とは違いがあると話されていたと思いますので、もう少しその部分の記載が欲しいなと思いました。

<p>9 とても良かった</p>	<p>「コロナ禍におけるコミュニケーションへの影響と工夫」という部分について大事なことではありますが、コロナが収束し、マスクを外して生活できるようになれば、時代錯誤の印象を受けそうです。それが、もしかすると1年後などになる可能性もあるかもしれません。内容を吟味して、せっかくなにもよいものを作成されるので、数年後も、興味をもって初めてみた人が「新鮮だなあ！」と思えるように、コロナの部分はなくてもよいか、と思います。</p>	<p>竹見さんがお話しされていたように、「個人競技なので、競技中の通訳だけでなく、競技開始までの当日の動きの通訳も大事」ということが理解できる内容でした。</p>	<p>技（レシーブ）の説明部分で、カタカナがたくさん並んでいるので、少とっつきにくいなあと感じてしまいました。技の説明と最終ページの手話表現をならべて載せると、頭でイメージしやすいのではないかと、思いました。</p>	<p>昨年、手話通訳者になったばかりです。もともと、スポーツをしていたので、どんな世界なのだろうと参加してみると、とても深い内容の話ばかりで感動しました。2025年に地元で国スポがあるので、通訳として参加したいと思っています。通訳場面には「会議」「医療」「就職面接」などがありますが、その中に「スポーツ」というカテゴリーがはっきりとあるのだ、と覚えておきたいです。そして、今日お話しを伺ったことを意識して、通訳に臨みたいと思います（手話講座のテキストで「フットサル通訳」の回がありました。ここまでスポーツ通訳の深いところまで学べなかったように思います。）ろう学校の先生、デファスリート通訳の方々のお話し、とても学ぶものが多かったです。とてもよい入選だったと思います。テキストだけでは今日のように生の声を伝えてもらうことはできないので、またこのようにオンラインで学ぶ機会をいただきたいと思います。</p>
<p>10 良かった</p>	<p>誰を対象にしているパンフレットなのかがよくわからない。通訳以外の聞こえる人に対する、ろう者への理解を求める啓発的なもののように感じた。もしそうであるなら、タイトルはささえる、という言葉がふさわしいのか？とも競技する、競技を楽しませてもらう、という人を対象とするならタイトルはもう少し工夫が必要かもしれないと思う。</p>	<p>助力に関する説明は良いと思った。各用語の手話単語は是非お願いしたいと思う。フルマラソン、ハーフマラソンという表現を出すときに両方の言葉があれば全部、半分、と出しているが、単体でハーフマラソンと言われたときは距離半分、のようにわかりやすい工夫を考えている。が、話者スピードに遅れないよう必死でやることが多い。マラソンは都道府県主催行事も多いので記者会見でもよく出る話題のため、通訳スピードの面で確定した手話単語があるととても助かる。できれば、行事のランナー募集あたりからよく出る言葉も巻末などにに入れて欲しい</p>	<p>巻末の手話表現はわかりやすかった。通訳の立ち位置などにも触れてあり、とても参考になった。エンド、正規の返球といったよくわからない言葉もあったので、こういうものにも解説と手話表現をつけるのとさらに良いのでは、とおもった。QRコードを使い、動画でアドバイスを通訳する時の様子など模擬でも良いので見ることができれば、どこまでなら通訳して良いかなどの判断の目安になると思う。</p>	<p>自転車編のQRコードはとてもいいと思った。ほかのサッカーや卓球などでぜひ取り入れて欲しい。 サッカーなど通訳もともに動かなくてはならない競技の場合、立ち位置を考えるのも難しいと思うので、良い例を模倣でも良いので見る機会が欲しい。</p>
<p>11 とても良かった</p>	<p>p8～中高時代のスポーツ経験の中の質問に、監督・コーチなど指導者どのように指示を受けたり理解したりしていたのか?といったことも入れると生徒同士ではない、情報伝達の方法などもわかるのかなと思いました。</p>	<p>写真も多く見やすいです。 陸上競技は特にスタートが大事ですが、国際大会以外では光刺激システムの利用はまだまだな現状だと思います。 それについて、政府に要望している旨を掲載して広く社会の認知度を上げていくのも良いと思いました。</p>	<p>卓球を取り入れている学校も多いですし、オリンピックでメダルを獲得したことも記憶に新しいので、一般的に知識を持った人も多いと思います。 細かい技の名前も多く頻繁に使用する言葉はあらかじめ選手とサインを決めておくのと良いと載っていますが、手話通訳者からのコメント（忘れられないようなサインの決め方や苦労したことなど）があるとより一層分かりやすくなると思いました。</p>	<p>今回研修会に参加して現場の方々のお声を聴くことができて、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。 ありがとうございました。 皆さんの話の中で、経験が大事と語られることが多かったと思います。私自身は、仲間との遊び以外のスポーツはほとんど本格的に経験したことがありません。今から経験するのも難しいです。それでも通訳者としてルールブックやテレビ観戦を通して理解していこうと思っていますが、実際に経験していないととっさの判断力は弱いと思います。派遣を受けての手話通訳者として参加ではなく、ボランティアとしてまた、アシスタントのような立場で経験できる場があると嬉しいです。そういった場の紹介がホームページ等に掲載されることを期待しています。</p>
<p>12 とても良かった</p>	<p>スポーツ分野で手話通訳者が認識しておくべき情報が、簡潔にまとめられていて、みやすい。 最終ページのQRコードで動画を視聴できるのがとても良いと思う。 このパンフレットで、きこえない生徒に対する情報保障が未だに困難な状況にあることを再認識できた。 大会によっては手話言語通訳者の同伴を認められないケースが実在していることを知り、課題も認識できた。</p>	<p>競技当日の動きのページに記載されている内容だけでは、あまりイメージが湧かない。ページに具体的な画像が載っていればイメージしやすいと思う。</p>	<p>卓球の知識がありませんが、わかりやすい。サーブの種類などもQRコードで動画表示ができるとうれしいと思う。</p>	<p>スポーツ分野の手話通訳は知識背景が重要だとあらためて感じました。この事業に対する皆様の思いなどを強く感じることができ、とても有意義なウェブセミナーでした。今後、手話通訳者に対し、実技を通じた講習の機会をいただければ幸いです。本日はありがとうございました。</p>
<p>13 良かった</p>	<p>聾学校の数や在籍児童数を公立学校（健聴）との比較があると分かりやすい。</p>	<p>最後の手話単語が動画で見られると良い。（QRコード掲載）</p>	<p>最後の手話単語が動画で見られると良い。（QRコード掲載）</p>	<p>聾学校のスポーツにおける通訳を先生方が担っている現状が分かりました。 もっとスポーツを通して聞こえる人と聞こえない人が関わっていける社会になるといいと思います。</p>
<p>14 とても良かった</p>	<p>ろう学校OBOGの選手への質問が一般的過ぎると思いました。学校現場での経験を答えるようになっていましたが、もっと発展して、学校のスポーツ教育や部活動を改善する（全体・個別競技）意見などもっと聞き取り出してほしいと思いました。もう一つは、想定質問が、スポーツ選手当事者の視点から聞いたので、現役スポーツ選手も主体的に加わった質問内容にできたらより良いと思います（構成メンバーにはいらっしやるとは思いますが、さらに）</p>	<p>竹見先生がおっしゃっていたような（卓球編には類似記事があります）、手話通訳者がしてはいけないこと（注意が必要なこと）も、明示していただけると良いと思います。確か、竹見先生も、ある時点から、コーチ監督は、選手とコミュニケーションをとってはいけないようなことをおっしゃっていましたが、手話通訳者は、どうしても情報保障のことに集中し、音声・音情報は、なるべく選手に伝えなければとアンテナをはっていますので、この場合は、手を動かすコミュニケーションをはかっているように誤解される恐れがある、という陸上の場面があれば、注意点として掲載すると良いです。</p>	<p>卓球の用語は、一般的な打ち方の表現も大切ですが、一般的には聞き取れないが、競技では良く使われるルール上の用語の手話表現も、手話通訳者としては知りたいです。</p>	<p>パンフレットの作成に敬意を表します。とても期待しています。本日の質問は、パンフレットのターゲットが不明瞭だという点です。紙面の都合があると思いますが、①専門の手話通訳者養成が目的なら、もっと専門的でも良い、②一般の手話通訳者にもスポーツ競技に関心を持ってもらい事前知識として知ってもらう目的であれば、もっと手話通訳者としての動き方や経験談を入れると良い、③一般の聞こえる人へのデフスポーツの理解の普及を目的としているならば、通常の大会やクラブ活動などに聞えない人が参加したときの配慮について加えたほうが良いと思います。お答えは②だったので、競技通訳を頭にかけている人にとっては物足りないと思いました。逆に、一般の手話通訳者にとっては、競技に関心があってもサポートしたいと思っても、その競技の通訳をする機会は難しいのが現状だと思います。（厳しめの反応、どうかご寛容のほどをお願いします）</p>
<p>15 良かった</p>	<p>自分は、デフバドミントンのコーチの経験があります。成人の聞こえない選手は、聞こえる選手との交流を遠慮したがる傾向があるような気がします。もっと沢山の人たちとスポーツ交流をしてほしいと思います。パンフレットの意見でなくすみません。</p>	<p>まずは、聞こえる人々に聞こえない人たちへの理解を広めることが大切だと思います。それは関係者含め通訳者の役割なのではないかと思いました。それがスムーズに競技を進めていくための方法だと思います。</p>	<p>まずは、聞こえる人々に聞こえない人たちへの理解を広めることが大切だと思います。それは関係者含め通訳者の役割なのではないかと思いましたそれがスムーズに競技を進めていくための方法だと思います。</p>	<p>スポーツ大会での通訳の時、最低でも競技のルールや専門用語などを事前学習して臨んでいます。この研修会で納得したことは、私は監督やコーチの通訳経験はないですが、お話し十分話し合いをし選手一人ひとりに合った指導をすることは大切だと思います。それから選手側から将来の選手としての自分を思い描かせたいと思いました。良い研修会になったと思います。ありがとうございました。</p>

16	とても良かった	まず2021年も見ましてそのあとデフスポVol.2見ました。聾学校中心の内容で参考になりました。聾学校に在籍している間は学校関係のサポートなどで手話通訳による情報保障があったりと良いと思いますが、デフアスリートにはインテグレーションの方も少なからず結構いるんじゃないかなと思います。	陸上も細かい手話言語表現などだと思います。私は陸上のことはよくわかりませんが、一般からもみてわかる内容であればそれでいいかなとおもいます！	ルールがメインの感じのパンフレットだと思います。	今回初めて参加しました。健常者団体の東京ゲートボール連合に所属している50代デフです。地域協会にも入っています。先月やっとコーチングアシスタントとゲートボール指導員資格を取得しました。4月から理事を担当します。ある一定の年齢にならるとゲートボールを始める方が多いですが、手話通訳意識疎通問題があるというあって、それをどうしたらいいか、東京ゲートボール連合の幹部から使命と課題を与えられ、4月からその課題の糸口を見つけるために、各競技のトップがどのようにしているのか、更に知りたいですが…個別アドバースお聞きしたいです。
17	良かった	スポーツの現場での手話通訳に関心があります。質疑応答にもありました。通訳者目線の心構えや体験談などの掲載があればわかりやすいと思う。	上記2と同じ。内容は共通でいいと思う。	上記2と同じ。内容は共通でいいと思う。	研修会、有難うございました。現在、自分が経験のない種目(アーチェリー)の講習会へ通訳に行っています。指先の細かい動き等、自ら指導を受けている気持ちで動作を伝えるよう努めているところです。初心者コースから中級・上級へと進んでいます。ぜひ次回パンフレットの作成検討をお願いしたいです(^o^)
18	とても良かった	見出しについて。「～の工夫」「～の状況」など、何についての項目かわかる見出しになっています。ここをp.4「ろう学校とその生徒は少ない」「団体競技の部活継続が困難」やp.12「情報保障の方法は多様。通訳等の依頼の予算調整も課題」など、主旨が伝わるものにしたらいのではないかなと思いました。	p.8、ろう者と陸上競技について、ページ下にスペースがあるので「ルールは一般の大会と同じ」「デフリンピック独自のルール」「選手登録は地域の陸上競技協会への選手登録が必要」などの見出しがあったら良いと感じました。	他のパンフレットも同様なのですが、「ろう者と〇〇」のタイトルがその競技におけるろう者スポーツの歴史が書いてあるのかな?と連想してしまいました。p.4に見出しで「ルールは一般大会と同じだが情報保障が課題」「ICSD規定では補聴器を外して出場するルール」「在住地域での協会に登録が必要」などの文言があればと思いました。	聴覚障害の競技者と関わる聞こえる競技者や関係者を知ってほしいことを掲載したものと理解しています。ウェブナー中の質問にもありましたが、実際に通訳などで支援に関わっている人の経験を知ることができれば、自分ができることの具体的なイメージができるとともに、気持ちの上でもハードルが下がる気がします。
19	良かった	状況とともに今の課題の情報も欲しい。	競技種目についてはメジャーであるので写真は多様する必要がない。その分情報を載せてよい。コラムやポイントの情報が有意義で役立つと考えます。具体的に種目毎の注意点の情報がよかった方がよい。	具体的に種目毎の注意点の情報がよかった方がよい。よくある質問…のような、実際に経験のある手話通訳者からの留意点があるとよい。	形にとらわれず、立派でなくてもいいので予算を有効に、実際活用しやすいパンフレットの作成をよろしく願います。ありがとうございました。
20	良かった	地域による差があることが初めてわかったので、参考になります。用語の表現を載せてほしい。	組織図は参考になります。手話表現を載せてほしい。	組織図は参考になります。専門用語の手話表現も載せてほしい。	現在デフ・カーリングの(講義や指導時の)通訳をしていますので、共通する部分が多く大変参考になりました。この企画が具体的な勉強につながると思って申し込みましたので、上記の意見がなく申し訳ありません。
21	良かった	意見交換の中で頭脳さんが指摘されていたように、手話言語通訳担当者の意見をもっと取り入れて頂きたいと思えます。通訳の視点で気を付けること、準備すべきこと、周りに求めていくことなど、今までの経験を新しい方へ伝えることで、通訳を担う人材が増えていくように思います。	用語と手話表現のページが単語だけなのでどうなるのか分からないのですが、『用語の意味』と『手話表現』を併記してほしいと思えます。手話表現が写真だけで動きが分かりにくいこともあります。自転車の場合、矢印が付いていますが平面なので、縦の回すのか横に回すのか分かりにくいと感じました。	普段の練習は地域の学校やクラブで練習していることが多いので、代表合宿の練習などで使われる手話が統一されていないだけでなく、用語そのものにも違いがあると思えます。もっと多くの『用語と手話表現』を掲載し、ずれをなくするとともに、もっと多くの人々に手話やデフスポーツを知っていただく資料にもしてほしいと思えます。	日本ろう者水泳協会のお手伝いをしています。スポーツ用語の手話の本が出ていますが、水泳に関する用語の記載は少なく、また、記載されている手話も実際に代表選手が使っていない手話が載っていたりします。地域の学校に通っている選手の中には代表合宿で手話を感じる人も多く、用語が統一されパンフレットに記載されると、より指導が受けやすくなるのではないかなと思います。
22	良かった	関連情報について他の〇〇辺の最後のページにも載せてもいいのではないのでしょうか?	自転車編にある実際の通訳のズレの例という項目を入れ欲しいなと個人的に思いました	自転車編にある実際の通訳のズレの例という項目を入れ欲しいなと個人的に思いました	今回の冬季オリンピックでドーピングの話題がありましたが、現在ドーピングに対するデフアスリートへの情報提供ほどの段階からしてものなのでしょうか?高校生くらい?
23	とても良かった	本日の研修のご意見にもありましたように通訳者の意見等を入れられたいと思えます。①開会式 ②競技 ③閉会式(表彰) 各場面に通訳経験がある方 帯同は関係者が多いかと思えます。	上記のとおりです。	上記のとおりです。	2014年全国障害者スポーツ大会の県の担当でしたが一番聴覚障害者に対してのテキスト等に力を入れました。手話通訳関係者との会議、テキスト関係の会議など障害についての理解はデフのみではなく、アスリートの方々の意見等も反映されるといいですね。
24	良かった	体育の授業の紹介だけでなく、学校生活全般も紹介してよかったかなと思えます。デフスポーツはスポーツだけでなく、生活面も重要なので。また、経験談も多めに紹介した方がいいかもかもしれません。	大会に関する必要な情報(練習から試合までの流れ等)が載っているのいいと思えます。	写真がないのでわかりませんが、特にありません。	パンフレットは誰向けなのか、目的をもうちょっと明確にした方がいかなと思えました。ありがとうございました。
25	良かった	スポーツ通訳を育てるテキストに近いものを勝手に想像していた。もちろん大切なことがたくさん載っているのだが。	陸上競技には種目も多くたくさん専門的な知識も必要なんだろうと感じた。もし実際に大会に通訳に行くことになったときに事前に読むには少し心細いかなと思う。	陸上競技にも書きましたが、もし実際に大会に通訳に行くことになったときに事前に読むには少し心細いかなと思う。	急に通訳に行くことはいらないと思うので、選手や監督との事前の打ち合わせや確認などが大切なんだともう。大きな大会であれば特に事前の合宿などから参加して通訳も成長しておかなければならないことも記載が必要かと思う。
26	良かった	大会等に手話通訳がつくのが当たり前となるような今後の展望がどこにあると良いのでは思いました。表紙の題字は青だとちょっと熱が冷めた感じを受けました。グリーン系はどうでしょうか?	スマホで読み取って動画が見られる部分があると良い	スマホで読み取って動画が見られる部分があると良い	どのパンフレットにも「新しい手話」のようにスマホで読み取って手話の動きがみられると写真と共に確認できるのではと感じました。
27	とても良かった	透明マスクの写真掲載について。載せられている商品がお勧めということでしょうか?一商品の宣伝を兼ねているのか?協賛を頂いているのか?	全てを読みきれてないし、未完成のようなので今のところ特に意見はありません。	全てを読みきれてないし、未完成のようなので今のところ特に意見はありません。	今回の座談会でいろいろな良いお話を伺えた。是非デフアスリートをささえるvol.3に盛り込んで頂きたい。
28	良かった	通訳者育成の視点で考えると、より現場に出た時に助かる情報や実際に大会に出た選手が感じたこと、困ったことなどの具体的な例を載せていただくとより対応がスムーズになるのではないかなと思います。	意見交換の中にもありました様にそれぞれ、種類や種目によって必要な情報が異なると思えますので、その辺を入れていただくとよいと思えます。	試合中の情報が比較的多い時思えます。それはそれで必要ですが、会場入りから試合終了までの流れ手続きなどで通訳者として知っておいた方が良いことなども入れていただくとそのスポーツの経験のない方にもより関わりやすいのではないかなと思います。	通訳者の育成の視点からの意見交換と、パンフレット作成のための意見交換が今回同時に行われて、なかなか深掘りが難しかったのではないかなと感じました。またこれから意見を踏まえて今回のような会が開催されると思えますので、以降の開催に繋げていただければと思います。また、参加させて頂きたいと思えます。
29	良かった	先程も意見がありましたが、通訳経験者の意見・感想も載せて頂けると有り難いと思えます。	陸上競技は種目も多いので、専門的な事を把握するのは難しいです。座談会のお話にもありました「助力」というルールを初めて知りました。	学生時代に卓球部だったので、他のスポーツに比べると少しはルールが把握出来ていますが、ルール改正もあり昔とはだいぶ違って驚きました。	座談会のお話にもありました。競技ごとの専門的な用語、表現方法を把握した上で通訳が求められるという事が参考になりました。

30	とても良かった	p.9の主な大会の国内大会について、「毎年〇月頃」など追記いただけると、その時期のニュースなどを注目出来るのでは？と思いました。	p.15のスタートブロックは「スターティングブロック」と表記した方が良いのでは？と思いましたがいかがでしょうか。	前回のサッカー、自転車のパンフレットには共通して「手話言語通訳のポイント」のページがありますが、陸上、卓球ともにそのページがありません。是非前回のように「～を確認しておく事も大事です」「こう工夫する事が大事です」「～という事が多いので注意が必要です」などのポイントを掲載いただけると嬉しいです。	大変貴重な機会に参加させていただき嬉しく思います。スポーツに関するこのような機会が増える事を期待しています。ありがとうございます。
31	良かった	今日の内容が盛り込まれ、分かりやすくできていると思います。	用語と手話表現があるようなので、良いと思います。	サッカーのように用語についての説明がもう少しあると分かりやすいと思います。	もしPDFでダウンロードする形式にするのであれば、製本しやすいようなページは一つのもの、ダウンロード一覧に乗せてもらえたら、持ち運びできて見やすくていいと思います。現在の形式だとA4に両面印刷して二つ折りにする程度です。また、以前のものは表紙が大きすぎて普通に印刷するのは製本には向きません。冊子に製本できる形にしてのせてもらえると、使いやすくていいと思います。
32	良かった	とくに意見はありません。	基本ルールの「予選ラウンド」のところで、追加できそうなら「次のラウンドに進める選手とその組・レーンは予選ラウンド終了後に番組編成されて、競技場内の所定の場所に掲示されるので、次のラウンドに進めそうな場合は、掲示を見て、時刻に遅れないように招集場所に集まる」という内容を追加したほうが良いと思います。	特に意見はありません。	研修会、ありがとうございました。このパンフレットはどのような所に置かれる、または配付されるでしょうか。人工内耳の普及などで一般の学校に在籍して、運動部に所属する生徒もいると思います。そのような学校の指導者にこのパンフレットを読んでもらえるといいなと思います。
33	とても良かった	タイトルが「デフアスリートをささえるvol.2」となっていますが、このままにするのなら副題で『学生スポーツ』とはっきり記載したほうが良いと思う。	選手の実績、通訳の実績といった実際の声を掲載することも必要かもしれない。	上記同様、それぞれの立場の実績談を掲載することも必要かもしれない。	地域でろう者の体育大会（県レベル）の通訳として参加しました。競技について、圧倒的に選手の知識に追いついていない事を痛感しました。大会準備と並行して競技知識を深めることが必須だと思います。
34	良かった	学校教育の体育の授業で行なわれるスポーツと、部活など競技として行なわれるスポーツは、性格が違うと思います。Part1とPart2を入れ替えると、話の流れがスムーズになるのでは、と思いました。	ルールに関する手話表現もあるといいと思いました。竹見先生が、陸上競技では、助力のしすぎはルール違反というような話をされてました。簡潔な手話表現があると、選手にとっても助かると思います。	競技独特の言葉、専門用語をどのように通訳すれば伝わるのか、ある程度、全国共通のものがあるといいと思いました。これは、陸上編も同じです。	「アスリート」というと、トップ選手というイメージがあります。デフリンピックや、競技力向上のために、手話言語通訳が果たす役割を明らかにしたことは良いと思います。競技全体のレベルアップには、底辺の拡大は欠かせません。今後、レクリエーションスポーツも、ろう者がスポーツを楽しむ場を増やすためにという視点で、取り上げてほしい。
35	良かった	申し訳ありません。見ることが出来ませんでした。今後はもう少し期間を一週間前ぐらいに送っていただければ、同何見ることが出来たて思いますので、よろしくお願ひいたします。	申し訳ありませんが、見ることが出来ませんでした	申し訳ありませんが、見ることが出来ませんでした。	パンフレットについては、24日に送っていただいたのですが、スマホでしたので容量が大きいか操作が上手くいかず見る事が出来ませんでした。明日以降で再度挑戦したいと考えています。今回は本当に申し訳ありませんでした。でも、今日の座談会はとても参考になりました。ありがとうございます。今後とも応援していきたいし、頑張ってください。期待しています。
36	良かった	現状や今までの取り組みはよく分りますが、通訳者がどうあるべきかと言うことがわかりにくいと思います。	具体的な通訳場面の例などが欲しいと思います。	具体的な通訳場面の例などが欲しいと思います。	現場の先生方のお話を伺って、選手を育て大会に参加させるということは周りからみれば分らない苦労があるのだと痛感しました。最後に最後におっしゃっていた予算の問題も大切ですね。
37	良かった	デフスポーツの通訳について知りたく受講させていただきました。これからの学習の参考にさせていただきます。	デフスポーツの通訳について知りたく受講させていただきました。これからの学習の参考にさせていただきます。	デフスポーツの通訳について知りたく受講させていただきました。これからの学習の参考にさせていただきます。	実際に通訳を経験された方の経験談やご意見がうかがえると通訳を目指している人たちの参考になると思います。本日はありがとうございます。
38	良かった	現状を伝える意味ではよいと思います。教員ではないので学生の現状を知りません。特に意見はありません。	基礎的な知識を知ることができてよいと思います。	基礎的な知識を知ることができてよいと思います。	通訳者の失敗談や、こうすれば良かった、これが良かったなど、実際の実験談を各競技で知ることができればと思います。
39	良かった	特になし	・スタートランプを活用している都道府県の実況を知りたい。	特になし	・各競技団体で手話通訳者の方と交流できるような研修会や催し（体験会）があるといいなと思います。 ・聴覚障害者という枠からするとろう以外の区分も必要ではないか？→中途失聴・難聴・人工内耳など ・スポーツ分野に詳しい手話通訳者の紹介
40	良かった	ぜんろうくんが出すものなので、不要かもしれませんが、この冊子とは別に、各地域での冊子づくりが必要だと思います。その冊子づくりは、それぞれの県にお任せになると思いますが…内容としては、ある県内に、どんなデフスポーツチームが、どこでいつ活動しているのか、その連絡先はどこかなどです。地域によって盛んなスポーツも違うと思うので、通訳者は多くが派遣・登録で、なかなか決まった競技だけの専属通訳とはなりにくいです。そういった現状もふまえてもらえると、より多くの通訳者がこのパンフレットを手にするのではないのでしょうか。国体が行われる県で、このパンフレットを普及すとも良いかもしれません。他の冊子も同じくです。	陸上競技は種目が多いので、大変かと思いますが、是非、どの競技もれなく網羅してほしいです。	QRコードを付けて、動画で手話が分かるようにしてはどうでしょうか。	講師の皆様、司会の皆様、ありがとうございます。大変勉強になりました。質問ですが、パンフレットの作成にあたり、全通研との協力がありますか。門脇さんのお話にもあるように、「通訳者向け」ならばその使用する通訳者が知りたいことが盛り込んでもらえることが大事な視点かと思います。
41	良かった	一般大会への参加をもっと詳しく知りたい。具体的な問題点や課題など。	基礎知識がわかりやすくて良い。	用語と手話表現をもっと増やしてほしい	通訳者の意見も取り入れると良いというご意見に賛成です。
42	良かった	体育教育の現状として、自治体によってそれぞれ抱える課題は異なると思った。もう少しいろんな声を聞いてみたいです。	特になし。	特になし。	スポーツにおける職文化、ろう文化の比較があるとスポーツに興味のない方も興味が増えるのではないかと思います！
43	とても良かった	申し訳ございません、こちらの環境不具合だと思うのですが、PDFデータが開けず拜見しておりません。	申し訳ございません。	申し訳ございません	ありがとうございます。 私はずっと以前にスキー場で通訳をしたことがあります。手が凍えて大変でした・・・。 スキーのパンフレットもできるのを楽しみにしております。
44	とても良かった	健常の監督とデフの選手の間に通訳がないことにより、コミュニケーションがとれず関係がうまく構築できないケースがあり、このパンフレットはそういう現状を打破する1つのツールになればよいと思います。	特になし	特になし	非常に勉強になりました。このような研修会を今後も引き続き開催していただければと思っています。